

**第四期武蔵野市コミュニティ評価委員会
報告書**

案

第四期武蔵野市コミュニティ評価委員会

第四期武蔵野市コミュニティ評価委員会

目 次

はじめに	1
第1章 評価の目的と流れ	2
1. 武蔵野市コミュニティ評価委員会の役割	2
2. 評価について.....	2
(1) 評価の目的・視点	2
(2) 評価の対象	3
(3) 評価委員会の構成	3
(4) 議論の経過	3
第2章 評価の方法	5
1. 評価の基準	5
2. 評価の方法	5
(1) 施設利用状況調査	5
(2) 利用者アンケート調査	6
(3) 無作為抽出アンケート調査.....	7
(4) 意見交換会及び視察	8
第3章 評価の結果	10
1. 吉祥寺東コミュニティ協議会	10
2. 本宿コミュニティ協議会.....	13
3. 吉祥寺南町コミュニティ協議会	16
4. 御殿山コミュニティ協議会.....	19
5. 本町コミュニティセンター協議会	22
6. 吉祥寺西コミュニティ協議会	25
7. 吉祥寺北コミュニティ協議会	27
8. けやきコミュニティ協議会.....	30
9. 中央コミュニティ協議会.....	33
10. 西久保コミュニティ協議会	36
11. 緑町コミュニティ協議会.....	39
12. 八幡町コミュニティ協議会	42
13. 関前コミュニティ協議会.....	45
14. 西部コミュニティ協議会.....	48

15.	境南コミュニティ協議会.....	51
16.	桜堤コミュニティ協議会.....	54
17.	全コミュニティ協議会に共通する項目について.....	57
(1)	適正な運営.....	57
(2)	施設・設備の管理.....	57
第4章	総評.....	59
1.	協議会運営全般について.....	59
(1)	情報の発信.....	59
(2)	人材の確保・育成.....	62
(3)	諸団体との連携.....	65
(4)	気軽に立ち寄れるコミュニティセンターづくり.....	68
2.	施設設備等のハード面について.....	70
(1)	これまでの経緯と現状について.....	70
(2)	今後に向けて（総括）.....	73
3.	地域フォーラム、コミュニティ未来塾むさしのについて.....	75
(1)	これまでの経緯と現状について.....	75
(2)	今後に向けて（総括）.....	81
4.	まとめ.....	83
資料編	84
1.	各コミュニティ協議会の概況.....	84
2.	各種調査結果.....	84
(1)	無作為抽出市民アンケート.....	84
(2)	利用者アンケート.....	84
(3)	意見交換会結果.....	84
(4)	視察.....	84

はじめに

武蔵野市では、昭和46（1971）年の第一期基本構想・長期計画において「コミュニティ構想」を策定し、市民の自発的なつながりによるコミュニティづくりを推進してきた。このコミュニティづくりの中核的な役割を担っているのが、コミュニティセンターを運営している16のコミュニティ協議会であり、市民による自主三原則（自主参加、自主企画、自主運営）の理念に基づき、市内の19館（分館等含む）のコミュニティセンターを運営しながら、地域ごとに特色ある活動を展開してきた。武蔵野市の市政運営の基本原理である「市民自治」、すなわち市民自身が自らの住むまちを築き運営するという考え方は、このコミュニティ協議会による数多の実践を通じて、幅広い市民の間で経験的に培われてきたと言えよう。

いっぽうで近年では、市民のライフスタイルの変化や地域課題の複雑化・多様化が進み、福祉、子育て支援、青少年健全育成、防犯・防災、環境、まちづくり等の幅広い分野で、市民が自主的に行う活動や市民と行政とが連携・協働により行う取組みがより一層求められている。

こうしたなかで、多くのコミュニティ協議会が、担い手の不足や高齢化・固定化といった人材面での課題、また多様な主体のネットワークづくりにおける課題、さらには施設の設定面での課題（老朽化・バリアフリー化等）など、様々な課題に直面している。今後、コミュニティ協議会がこれまでと同様又はそれ以上にコミュニティづくりの中核としてその役割を果たせるよう、コミュニティ協議会の取組みについて評価を行い、より効果的な施設運営や取組みの発展につなげていくことが求められている。

第1章 評価の目的と流れ

1. 武蔵野市コミュニティ評価委員会の役割

武蔵野市コミュニティ評価委員会は、武蔵野市コミュニティ条例（平成13（2001）年12月武蔵野市条例第33号）に基づいて、各コミュニティ協議会の施設運営や事業内容について第三者の視点から総合的に評価し、広く市民に対して情報を公開するとともに、施設運営や事業内容のさらなる向上と今後のあり方の検討に資することを目的として設置されるものである。

このたびのコミュニティ評価委員会は、平成24（2012）年1月に報告書を提出した第三期武蔵野市コミュニティ評価委員会以来の第四期の委員会であり、平成31（2019）年3月から令和2（2020）年10月までの期間にわたって設置された。

2. 評価について

(1) 評価の目的・視点

武蔵野市では、昭和46（1971）年に定めた第一期基本構想・長期計画以来、「市民自治」を市政の基本理念に掲げ、市民施設のネットワーク計画とコミュニティ構想により、「多世代が集う地域の居場所」、「地域における市民活動の拠点」としてコミュニティセンターを整備してきた。コミュニティセンターは、それぞれの地域の住民が組織するコミュニティ協議会によって、自主三原則（自主参加・自主企画・自主運営）に基づき管理運営が行われており、協議会はコミュニティセンターを拠点に、多様な主体とゆるやかにつながりながら自主的なコミュニティづくりを進めている。

こうしたコミュニティ協議会の活動は、コミュニティセンターの管理運営と相まって、市民の自主性を高める市民自治のまちづくりの要として位置付けられており、各種イベント等の個々の活動についてはそれぞれの協議会の自主に委ねられている。

そのため、本評価委員会の目的の第一は、コミュニティ協議会の取組みが客観性・透明性をもって適切に行われていることを確認し、広く周知することで、コミュニティ協議会とコミュニティセンターが市民活動の要として一層開かれたものとなることである。目的の第二は、各協議会が評価委員会による評価活動を通じて自らの取組みを振り返り、また他の協議会の状況を知ることによって、新たな気づきや学びにつながり、今後の活動の発展に資することである。さらに第三の目的として、「これからの地域コミュニティ検討委員会」で提言された「地域フォーラム」と、学びの場として行ってきた「コミュニティ未来塾むさしの」

事業についても、コミュニティ協議会の活動に一定の影響のある事項として評価を行うこととした。最後に、コミュニティ活動に影響する施設のハード面についても現状や特徴を確認し、今後市で予定している施設整備計画策定の参考に資するよう課題等の検討を行った。

(2) 評価の対象

本評価委員会での評価対象は下記の 16 協議会である。

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 吉祥寺東コミュニティ協議会 | 9. 中央コミュニティ協議会 |
| 2. 本宿コミュニティ協議会 | 10. 西久保コミュニティ協議会 |
| 3. 吉祥寺南町コミュニティ協議会 | 11. 緑町コミュニティ協議会 |
| 4. 御殿山コミュニティ協議会 | 12. 八幡町コミュニティ協議会 |
| 5. 本町コミュニティセンター協議会 | 13. 関前コミュニティ協議会 |
| 6. 吉祥寺西コミュニティ協議会 | 14. 西部コミュニティ協議会 |
| 7. 吉祥寺北コミュニティ協議会 | 15. 境南コミュニティ協議会 |
| 8. けやきコミュニティ協議会 | 16. 桜堤コミュニティ協議会 |

(3) 評価委員会の構成

本評価委員会の委員は下記の 6 名から構成される。

- | |
|-----------------------------|
| 委員長 玉野 和志(東京都立大学人文科学研究科教授) |
| 副委員長 深田 榮一(武蔵野市コミュニティ研究連絡会) |
| 委員 佐藤 光彦(日本大学理工学部教授) |
| 委員 青木 一郎(武蔵野市コミュニティ研究連絡会) |
| 委員 寺島 芙美子(公募委員) |
| 委員 小島 麻里(武蔵野市市民部市民活動担当部長) |

(4) 議論の経過

本評価委員会では、全 10 回の委員会を開催し、各コミュニティ協議会の取組みに関して評価活動を行った。また、評価を行うにあたっては、意見交換会や視察などを通して、各コミュニティ協議会とのコミュニケーションを重ねながら評価を行った。

なお、本評価委員会の評価活動中に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和 2 (2020) 年 3 月実施予定の視察や第 7 回以降の評価委員会が延期になった。こうした影響を受けながらも、各コミュニティ協議会の協力を得て、7 月以降に各評価活動を再開し、本調査報告書の取りまとめに至った。

図表 1 評価活動の流れ

日程	委員会等	各種調査
令和元 (2019)年 3月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第1回評価委員会 <ul style="list-style-type: none"> ● 評価委員会の運営について他 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第2回評価委員会 <ul style="list-style-type: none"> ● 調査実施概要について <ul style="list-style-type: none"> - 無作為抽出市民調査項目(案) - 事前調査項目(案) ● コミュニティ協議会との意見交換会に向けて 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 利用者アンケート調査 <ul style="list-style-type: none"> ● 5月～6月実施 ※一部コミセンでは工事のため8月に実施 ● 各コミセンの利用者(計10,000部配布)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第3回評価委員会 <ul style="list-style-type: none"> ● コミュニティ協議会との意見交換会に向けて <ul style="list-style-type: none"> - 意見交換会の進め方(詳細版)の共有 - 各コミュニティ協議会に関する基礎情報の共有 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 意見交換会 <ul style="list-style-type: none"> ● 第1回(8/7):八幡町、西久保、御殿山、西部、桜堤、本宿 ● 第2回(8/20):本町、緑町、吉祥寺南町 ● 第3回(8/21):吉祥寺北、吉祥寺東、吉祥寺西、けやき、境南、関前、中央 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 無作為抽出アンケート調査 <ul style="list-style-type: none"> ● 7月8日～8月2日実施 ● 住民基本台帳から無作為抽出により満18歳以上の男女2500人を抽出
10月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第4回評価委員会 <ul style="list-style-type: none"> ● 各種調査結果の報告 <ul style="list-style-type: none"> - 無作為抽出市民意識調査の報告 - 利用者アンケートの報告 ● 意見交換会の振り返り <ul style="list-style-type: none"> - 各協議会との意見交換の結果共有 - 評価軸の検討 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第5回評価委員会 <ul style="list-style-type: none"> ● 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> - 第4回評価委員会を踏まえた評価報告書における評価の枠組み - 地域別人口動態の報告 ● 地域フォーラムについて ● コミュニティ未来塾について 	
令和2 (2020)年 2月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第6回評価委員会 <ul style="list-style-type: none"> ● コミュニティづくりについてのまとめ①(8協議会) <ul style="list-style-type: none"> - 評価委員会からのコメント(総括・期待)の検討 ■ 第1回視察(2/21) <ul style="list-style-type: none"> ● 吉祥寺東、本宿、吉祥寺南町、御殿山、本町 	
コロナウイルス感染症のため第2回視察および第7回以降の委員会を延期(令和2(2020)年3月～6月)		
7月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第7回評価委員会 <ul style="list-style-type: none"> ● 議論の進め方 ● コミュニティづくりについてのまとめ②(8協議会) <ul style="list-style-type: none"> - 評価委員会からのコメント(総括・期待)の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 追加ヒアリング(7月～8月)@各コミセン <ul style="list-style-type: none"> ● 事務局により各協議会に追加ヒアリング ● (防災訓練・個人情報保護・備品管理等の館運営の実務面について)
8月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第8回評価委員会 <ul style="list-style-type: none"> ● 追加ヒアリング結果等について ● コロナ禍のコミュニティ活動への影響について ● コミセンのハード面の特長・課題について ■ 第2回視察(8/26) ※順延分を実施 <ul style="list-style-type: none"> ● 吉祥寺西、吉祥寺西分館、吉祥寺北、けやき、緑町 ■ 第3回視察(8/30) ※順延分を実施 <ul style="list-style-type: none"> ● 桜堤、西部、境南、八幡町、関前、関前分館、西久保、中町集会所、中央 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第9回評価委員会 <ul style="list-style-type: none"> ● ハード面の特長・課題について② ● 報告書素案の検討 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第10回評価委員会 <ul style="list-style-type: none"> ● 報告書のまとめ 	

注) 評価委員会の議事要旨と資料は、武蔵野市ホームページで公開している

第2章 評価の方法

1. 評価の基準

武蔵野市コミュニティ条例の趣旨に則って各協議会が独自の工夫を重ね、地域のニーズに沿った運営をしているかどうかには焦点をあて、下記の項目を基準とした。

図表 2 評価基準

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 利用者への配慮と適切な対応 ✓ 新しい利用者・利用団体の増加 ✓ 施設の利用方法の工夫 ✓ 情報の提供 	評価結果は〇〇頁へ
② 地域におけるネットワーク機能	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり ✓ 地域とコミセンのつながりづくり 	
③ 持続可能な協議会の運営	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 運営委員・協力員の人材充実 ✓ 持続可能な事業の実施 ✓ 活発な協議会運営 	
④ 適正な運営	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 会則や利用の決まりに沿った公平な運営 ✓ 個人情報の保護 ✓ 事業計画に沿った運営 ✓ 経費削減と予算の適正な執行 	評価結果は〇〇頁へ
⑤ 施設・設備の管理	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 異常時の市への連絡・報告 ✓ 防災・防犯 ✓ 防火の管理 ✓ 備品の管理 	

2. 評価の方法

(1) 施設利用状況調査

過去 5 年間における各コミュニティセンター別・部屋別の利用件数及び利用人数について集計するとともに、各コミュニティ協議会が実施している自己点検・評価表、実施事業概要（意見交換会前の事前調書で聴取）などを参考に、各コミュニティセンターの利用状況について調査を実施した。

利用件数及び利用人数の推移や、実施する事業・自己評価の変化は、各コミュニティ協議会の評価を行うにあたり参考情報とした。

(2) 利用者アンケート調査

各コミュニティセンターの利用者を対象に施設運営や事業内容について、「施設の安全性・利便性」「利用者へのサービス・対応」「連携・交流促進」「利用者の運営参加」の観点から満足度を把握するとともに、今後のコミュニティセンターに求める機能について利用者より意見を収集することを目的に実施した。

調査結果に関して、利用者の年齢や居住地は、コミュニティセンターの立地や周辺環境（学校の有無など）によって、各館の特徴がみられた。全体の平均値としては、コミュニティセンターを月1回以上利用する人が70%を超えており、40%弱の人が趣味を楽しむことを利用目的に訪れていることが分かった。サービス・運営面に関しては、ほとんどの項目で70%前後の回答者が好意的に評価している。一方で、「情報発信」については、コミュニティセンターに関する情報が伝わっているかという設問に対して肯定的な回答は全体として過半数を下回るなど課題がうかがえた。

調査結果は、各コミュニティ協議会の評価を行うにあたり参考情報とした。

図表 3 利用者アンケート調査の実施概要

調査の概要					
【調査対象】					
・ 各コミュニティセンターの利用者（計 10,000 部配布）					
【調査内容】					
(1)回答者属性：性別、年齢、住まい					
(2)利用状況：利用頻度、利用目的、コミュニティづくりが活発になるための施設・場所					
(3)サービス・運営への満足度：窓口対応、公平な運営、情報発信、総合的な使い心地、今後の利用継続意向					
(4)事業への参加状況及び意向：コミセン主催・共催事業への参加経験、今後の参加意向					
【調査方法】					
・ 各コミュニティセンターにて利用者に直接配布・回収ボックスでの回収					
【調査時期】					
・ 令和元（2019）年5月～6月（※一部コミセンでは工事休館のため8月に実施）					
【回収状況】					
①吉祥寺東	307 件	⑦吉祥寺北	113 件	⑬関前	53 件
②本宿	246 件	⑧けやき	155 件	⑭西部	50 件
③吉祥寺南町	67 件	⑨中央	157 件	⑮境南	59 件
④御殿山	42 件	⑩西久保	90 件	⑯桜堤	82 件
⑤本町	12 件	⑪緑町	63 件		
⑥吉祥寺西	57 件	⑫八幡町	65 件		

(3) 無作為抽出アンケート調査

第四期コミュニティ評価委員会の実施にあたって、地域コミュニティや市民自治に関する意識や活動の現状等を把握し、今後の地域コミュニティや市民自治のあり方について検討する際の基礎資料とすることを目的として、無作為に抽出した武蔵野市民 2,500 名に対し、「地域コミュニティについてのアンケート調査」を実施した。アンケート調査の実施概要は以下に示すとおりである。

調査結果に関して、全体の7割超が「地域に対して愛着がある」と回答する一方で、地域コミュニティ活動に参加しているのは3割程度にとどまっている。特に若年層において参加割合が低いほか、コミュニティセンターに対する認知度も相対的に低い。また、コミュニティセンターに求める機能として、「気軽に集まれる場所」「同じ関心を持つ人との幅広いつながりができる」等のニーズがあることが把握できた。

調査結果は、コミュニティ協議会の評価軸の検討にあたり参考情報とした。

図表 4 無作為抽出アンケート調査の実施概要

調査の概要
<p>【調査対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民基本台帳から無作為抽出により満 18 歳以上の男女 2500 人を抽出
<p>【調査内容】</p> <p>(1)回答者属性</p> <ul style="list-style-type: none"> 性別、年齢、職業、世帯構成、居住地区、居住年数、普段の情報収集の方法 <p>(2)地域との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> 近所住民との近所づきあいの程度、「地域」のイメージ、地域に対する愛着の有無、地域との関わりについての今後の意向、「地域」をよりよくするためにあると良いつながり <p>(3)地域コミュニティ活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域コミュニティへの参加状況、現在参加している地域コミュニティ活動の団体、参加したきっかけ、参加している地域コミュニティ活動が抱えている課題、（現在、地域コミュニティ活動に参加していない層の）地域コミュニティ活動への関心の有無及びその理由、地域コミュニティ活動に参加しやすくなるために必要なこと <p>(4)コミュニティセンターについて</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニティセンターの認知度、コミュニティセンターが地域住民によって運営されていることの認知度、利用しているコミュニティセンター、コミュニティセンターの運営面に携わった経験、コミュニティセンターを利用していない理由、コミュニティセンターに求める機能・サービス、コミュニティセンターに求める空間や設備、コミュニティセンターの企画・運営への関心意向

【調査方法】

- ・ 郵送配布・郵送回収

【調査時期】

- ・ 令和元（2019）年7月8日（月）～8月2日（金）

【回収状況】

- ・ 717票／2,500票（回収率：28.7%）

(4) 意見交換会及び視察**① 意見交換会**

全16協議会との意見交換会の実施にあたって、事前調書（主な事業内容、直面している課題、今後の意向等）を配布し各コミュニティ協議会にて回答し、事前提出していただいた。当日は、それらの事前調書に基づいて、評価委員との意見交換を行った。

図表 5 意見交換会の実施概要

意見交換会	概要			
第1回 令和元(2019)年 8月7日	①八幡町	10:00~10:45	④西部	13:30~14:15
	②西久保	10:45~11:30	⑤桜堤	14:15~15:00
	③御殿山	11:30~12:15	⑥本宿	15:00~15:45
第2回 令和元(2019)年 8月20日	①本町	10:00~10:45		
	②緑町	10:45~11:30		
	③吉祥寺南町	11:30~12:15		
第3回 令和元(2019)年 8月21日	①吉祥寺北	10:00~10:45	⑤境南	14:15~15:00
	②吉祥寺東	10:45~11:30	⑥関前	15:00~15:45
	③吉祥寺西	11:30~12:15	⑦中央	16:00~16:45
	④けやき	13:30~14:15		

② 視察

全 19 施設(分館含む)を対象に、施設・設備の特徴や課題、コミュニティ活動との関係性などを確認することを目的に、評価委員による視察を実施した。

図表 6 視察の実施概要

視察	概要	
第 1 回 令和 2(2020)年 2 月 21 日	①吉祥寺東 13:30~14:30 ②本宿 14:00~15:00 ③吉祥寺南町 14:30~15:30	④御殿山 15:00~16:00 ⑤本町 15:30~16:30
第 2 回 令和 2(2020)年 8 月 26 日	①吉祥寺西 13:15~13:55 ②吉祥寺西分館 14:05~14:15 ③吉祥寺北 14:25~15:10	④けやき 15:20~16:00 ⑤緑町 16:10~16:50
第 3 回 令和 2(2020)年 8 月 30 日	①桜堤 9:15~9:55 ②西部 10:05~10:50 ③境南 11:00~11:45 ④関前 13:00~13:40 ⑤関前分館 13:50~14:05	⑥八幡町 14:05~14:55 ⑦西久保 15:05~15:50 ⑧中町集会所 16:00~16:15 ⑨中央 16:25~17:10

第3章 評価の結果

各コミュニティ協議会の評価に際し、第2章で示した「施設利用状況調査」や「利用者アンケート調査」の結果を参考情報としたうえで、各コミュニティ協議会との意見交換会を実施した。

本章における評価結果は、主に意見交換会での議論及び意見交換会に先立ち各コミュニティ協議会から提出された事前調書の内容を踏まえ、各コミュニティ協議会における取組みについて評価したものである。

評価にあたっては、上述の評価基準・評価項目に沿って、「現状」「工夫している点」「特筆すべき成果」の3つの観点から整理した。特に「工夫している点」「特筆すべき成果」については、各コミュニティ協議会が創意工夫を行っている点であり、他のコミュニティ協議会の参考になることが期待される。

1. 吉祥寺東コミュニティ協議会

(1) 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

【①特筆すべき点】

- 利用団体は登録時に団体情報の公開を了承している場合には、他団体や利用者個人からの問い合わせに対して団体の活動内容を紹介するなどして、利用団体間や利用者同士のつながりが生まれるように工夫している。
- 様々な地域団体が参加して地域課題について話し合う「つどい」を継続的に開催している。このような地域の様々な主体が集まって話し合い、連携する取組を自主的かつ積極的に実施している。
- 域内全戸にコミセンの広報誌を配布しているが、掲載内容もコミセンの行事に関する情報だけではなく、地域・まちの情報やニュース、吉祥寺東町在住やゆかりのある方の紹介を行うなど、地域に関心を持ってもらうための工夫を行っている。

【②今後期待すること】

- 引き続き、「つどい」の事業をはじめ、様々な地域団体がコミセンに集まり、地域課題を話し合い、協働してアクションを起こすための「連携拠点」としての役割が期待される。
- コミセンが地域住民に身近な存在として知られ、より多くの人に諸行事・催し物に参画してもらえるよう取組みをさらに推進してほしい。

(2) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

利用者への配慮 と適切な対応	<p>【現状】利用状況については団体利用が多い。</p> <p>【工夫している点】団体の2回目以降の利用には団体登録をしてもらっている。コミセンの利用申込手続きを簡素化し、次回以降の利用促進を図っている。</p>
新しい利用者・ 利用団体の増加	<p>【現状】普段コミセンを利用する機会が少ない方も参加しやすい事業（イベント）を検討・実施している。</p> <p>【工夫している点】事業の一つである新春餅つき大会では、普段コミセンの利用が少ない方も多く参加し、地域行事に参加するきっかけになっている。</p>
施設の利用方法 の工夫	<p>【現状】寄贈いただいた美術作品を多数展示し、利用者が作品に触れあう場を提供している。</p> <p>【工夫している点】小規模施設であり、ホールも60名程度しか収容できないが、隣の児童室も合わせて使うことによって、できるだけ広いスペースを確保している。</p>
情報の提供	<p>【現状】コミセンの情報について、地域の掲示板への掲載に加えて、地域内の約6,900戸への全戸配布を行っている。</p> <p>【工夫している点】コミセン事務室に設置した箱に運営委員が把握した地域のニュースを入れて、運営委員で共有している。</p> <p>【特筆すべき成果】地域に関心を持ってもらうため、コミセン行事に関する情報だけではなく、地域・まちの情報やニュース、吉祥寺東町在住や、ゆかりのある方を「九浦の家だより」で紹介している。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利用者・利用団体 とコミセンとの つながりづくり	<p>【現状】利用者懇談会等、一堂に会して利用者から意見を聞くということは定期的には行っていないが、団体登録をしている中で、窓口でのコミュニケーションによって意見等を吸い上げている。それが利用者懇談会に代わるものとなっている。</p> <p>【工夫している点】利用者からの要望に応じて、登録団体との仲介を行い、つながりを創出している。</p>
地域とコミセン	<p>【現状】利用者や地域諸団体が一堂に集まり、地域住民交流の場と</p>

のつながりづくり	して新春餅つき&かるた大会を実施している。
----------	-----------------------

③ 持続可能な協議会の運営

運営委員・協力員 の人材充実	【現状】コミセンだよりの編集は大部分を特定の運営委員が担っている。校正などは他の役員も担っているが、今後同じものを継続していけるような体制を築いていくことが課題である。
持続可能な事業 の実施	【現状】概ね安定的に事業を実施している（これまで組織的な体制などが原因で事業数を減らしたことはない）。 【特筆すべき成果】昭和 49 (1974) 年からほぼ毎月続いている「つどい」は、基本は地域課題の解決に向けて誰でも参加できる事業。地域の課題を月に 1 回は話し合うというコンセプトで、現在まで続いている。
活発な協議会 運営	【現状】運営委員会を毎月 1 回継続的に実施している。そのほか、会則に役員会についての記載を追加し、役員会も月に 1 回行うほか、頻繁に臨時役員会も開催している。 【工夫している点】自己点検・評価表を作成する際には、臨時運営委員会を開催し、基本的には運営委員の総意によって作成を行っている。

2. 本宿コミュニティ協議会

(1) 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

【①特筆すべき点】

- 子ども向けの事業を行うなど、地域の様々な世代を巻き込んだコミセン運営が行われている。また、最近では成蹊大学などと連携した取組を実施するなど、多様な主体を巻き込んだ事業を積極的に実施している。
- 特に、コミセン祭りは運営委員だけではなく利用団体にも企画・運営に関わってもらうことで、それをきっかけにして、より多くの団体や個人がコミセン運営に協力してくれる好循環が生まれている。
- 運営委員が減少していくなかでも、事業の見直しに関するアンケート調査を実施するなど、持続的な運営に向けた改善の努力を進めている。

【②今後期待すること】

- 引き続き地域の様々な団体との連携を通して、持続可能な事業の実施が期待される。
- **様々な団体との連携が、新しい運営委員の広がりへとつながることが期待される。**
-

(2) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

利 利用者への配慮と適切な対応	<p>【現状】 住民総会や利用者懇談会で利用者からの意見を吸い上げ、その後の運営委員会等で検討している。</p> <p>【工夫している点】 コミセン利用における優先予約の対象エリアを小学校学区に合わせ、地域の要望に柔軟に対応している。</p>
新 新しい利用者・利用団体の増加	<p>【現状】 様々な世代が利用しているが、特に子育て世代の来館を今後は増やしたいと検討している。</p> <p>【工夫している点】 子ども向け事業（子ども劇場等）を行い、事業をきっかけに、子育て世代の利用促進に向け取り組んでいる。</p> <p>【特筆すべき成果】 新しい事業（背骨コンディショニング等）を実施したことで、普段コミセンにあまり来られない方たちの参加につながった。</p>

施設 の利用方法の工夫	<p>【現状】1階はガラス張りの部分が多い造りとなっている。</p> <p>【工夫している点】ロビーの一部を「本宿ギャラリー」とし、地域の方々の作品等を展示している。ギャラリーは常設で2週間ごとに作品を入れ替え、地域から親しまれている。</p>
情報 の提供	<p>【現状】コミュニティだより（年3回発行）やホームページによって、広く広報をしている。</p> <p>【工夫している点】わかりやすく楽しいポスター制作や、ミニチラシを作り、来館者への情報提供に努めている。</p> <p>一目でわかるコミセン主催事業の報告パネルをロビーに掲示している。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利 用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり	<p>【現状】コミセン祭りの開催では、普段利用している団体・個人の協力によって、継続的な交流を生み出すことができている。また、利用団体の発表会では、他の団体も鑑賞し、交流が生まれている。</p> <p>【工夫している点】コミセンを練習場所に利用していた成蹊大学のマジシャンズクラブや、絵本の読み聞かせイベントに参加していた団体に声をかけ、コミセン祭りで手伝いをしてもらえたなど、利用団体との連携の幅を広げている。</p>
地 域とコミセンのつながりづくり	<p>【現状】主催事業だけではなく、広く共催事業等も呼びかけを行っている。</p> <p>【工夫している点】地域の方々の作品を展示した「本宿ギャラリー」は地域の人々のコミセン利用のきっかけにもなっている。また、地域の小中学校とは必要に応じて懇談会を設けるなどの関係性ができている。また、地域フォーラムを定期的開催し地域問題を取り上げ、共通認識を持つように努めている。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

<p>運 営委員・協力員の 人材充実</p>	<p>【現状】運営委員の人数は比較的少なく、一人当たりの負担は大きい。毎年、若干名の新規加入者が得られているが、不足している。</p> <p>【工夫している点】コミセン祭りは、運営委員だけではなく利用団体にも積極的に関わってもらうことにより、より多くの方が協力してくれるようになった。コミセン祭りの実施には、成蹊大学のボランティアサークルの力も借りている。また、地域住民に限っていた運営委員の募集範囲を市内在住に広げた。</p> <p>【特筆すべき成果】コミセン祭りの運営を手伝う利用団体が増えたことで、他の利用者・利用団体が運営に関与するハードルが低くなり、好循環が生まれてきている。</p>
<p>持 続可能な事業 の実施</p>	<p>【現状】事業の精査をしつつ、実施している。</p> <p>【工夫している点】運営委員の中で事業の継続（継続／手直し／廃止）に関するアンケートを実施したり、共催事業を増やしたりしている。</p>
<p>活 発な協議会 運営</p>	<p>【現状】主たる事業の企画・運営は少ない運営委員で行っている。</p> <p>【工夫している点】運営委員は少数ではあるが、事業実施にあたっては、幅広い世代を対象とした企画を地域とともに取り組んでいる。</p>

3. 吉祥寺南町コミュニティ協議会

(1) 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

【①特筆すべき点】

- 音楽室（スタジオやホール）があることを活かし、若い世代の音楽団体を巻き込んだ事業を実施している。また、「パパ広場」をはじめ、若いお父さん層の巻き込みで成功している。こうした若い世代の参加を増やすことで、活気ある事業を展開している。
- 利用者のニーズや運営体制が変化するなかで、適宜事業の見直しを行い、新しい利用者の増加につながるような新規事業に積極的に取り組んでいる。
- 協力員の人員の拡充に加えて、令和元（2019）年度からは「助っ人バンク」というスポット的な協力員の募集も始めている。このように様々な関わり方ができる方法をつくることで、担い手不足の解消に取り組んでいる。
- 隣接する吉祥寺南病院と連携するなど、地域の防災ネットワークの構築に積極的に取り組んでいる。

【②今後期待すること】

- 引き続き、様々な形での協議会運営に参加できる方法を確保し、より多くの市民を巻き込んだ持続的な運営が期待される。
- 吉祥寺南病院やその他コミセンとの引き続きの連携を行うとともに、様々な地域活動団体との連携ネットワークの拡充も期待される。
- 大きめの部屋や施設を小分けで活用する工夫については、他の協議会とも共有を進めてほしい。
- 窓口担当に入らないフリーの役員が俯瞰的に運営を見ようとする工夫により、今後の事業展開にどのような効果が生まれるか期待したい。

(2) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

利 用者への配慮 と適切な対応	<p>【現状】音楽や演劇等、様々な分野の利用団体がある。</p> <p>【工夫している点】音楽演奏等、音を発する団体同士が近くの部屋にならないよう、予約の段階で調整している。</p>
---------------------------	---

<p>新しい利用者・利用団体の増加</p>	<p>【現状】スタジオやホールがあるために、最近では演劇やダンス練習で若い人の利用が増えている。また、「親子ひろば」事業には、子育て世代の参加があり、麻雀クラブは、女性の参加者が多く人気がある。</p> <p>【特筆すべき成果】若いお父さんを巻き込む工夫として、「パパひろば」を開催し、子どもを仲立ちに地域参加してもらう仕組みを作っている。また、お父さんたちが気後れしないよう、「パパひろば」のスタッフは男性が担っている。</p>
<p>施設の利用方法の工夫</p>	<p>【現状】スタジオやホールがあり、演劇やダンスでの利用が増えている。</p> <p>【工夫している点】ホールは、以前は20名以上での使用に限定していたが、ニーズの変化により、半分の区画で少人数でも利用できるように変更した。また、学習室は人気が高く、時季によっては入りきれないほどの利用者が訪れるため、必要に応じてその他の会議室を学習室として拡大している。</p>
<p>情報の提供</p>	<p>【現状】地域の約6,200戸に対し、協力員の手配りでコミュニティニュースを毎月配布しているが、協力員の高齢化などもあり、負担が増えてきている。</p> <p>【工夫している点】利用者へ声掛けを行い、コミュニティニュースの配布を依頼している。また、協力員と運営委員は普段顔を合わせる機会が少ないが、交流会を設けたことで情報交換の機会も増え、良い関係性を築けている。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

<p>利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり</p>	<p>【現状】南町文化祭は、各種の利用団体の発表・交流の場となっているほか、地域住民がコミセンに来館するきっかけとなっている。</p> <p>【工夫している点】意見交換や情報共有を目的として、同じような活動団体（福祉や書道等）同士が交流できるよう、協議会がコーディネートしている。</p>
<p>地域とコミセンのつながりづくり</p>	<p>【現状】「防災ネットワーク」では、各種団体が集まる機会となり地域のつながりが生まれている。武蔵野地区外環問題協議会は近隣協議会（吉祥寺東・本宿）とのネットワーク事業。その他、市議会議員との懇談会もネットワーク事業（吉祥寺南町・吉祥寺東・本宿）として行っている。</p> <p>【工夫している点】吉祥寺南病院が同じ街区の隣接地に移転する予</p>

	定。同病院と連携し、院長を招いて講座を行うなど活発に活動している。
--	-----------------------------------

③ 持続可能な協議会の運営

<p>運 営委員・協力員の人材充実</p>	<p>【現状】 スタッフの人員は、コミュニティニュース等での公募をメインに維持している。</p> <p>【工夫している点】 令和元年度より、「助っ人バンク」といって、スポット的に協力してくれる人員を募り、令和元年夏時点で4名の応募が得られている。また、個人的な人脈に頼らない人員確保のため、コミセン利用者に対する声掛けを行っている。</p>
<p>持 続可能な事業の実施</p>	<p>【現状】 利用者のニーズや運営委員の負担を考慮し、精査を行っている。</p> <p>【工夫している点】 適宜事業の見直しを行い、新しい利用者の増加につながるような、新規事業に取り組む体制を生み出している。</p> <p>【特筆すべき成果】 南町カーニバルは協議会と商店街の事業で、過去に人手不足から廃止を検討したこともあるが、地域の人々（サッカークラブ・野球クラブの保護者など）から形を変えての継続を提案され、協力を得ながら工夫して継続している。</p>
<p>活 発な協議会運営</p>	<p>【現状】 運営委員＝窓口担当となると窓口業務に比重が偏ってしまうという課題がある。</p> <p>【工夫している点】 窓口業務に携わらないフリーの役員の増員を検討している。</p>

4. 御殿山コミュニティ協議会

(1) 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

【①特筆すべき点】

- 運営委員と地域団体のメンバーが重複しているため、地域団体との連携がスムーズかつ活発に行われている点の特徴である。
- 御殿山一丁目町会や福祉の会をはじめとした地域団体と、防災訓練やお祭りを通じて連携を図っている。
- 月2開催している健康麻雀は人気が高く、参加者の交流の場ともなっている。

【②今後期待すること】

- 最近では当該エリアにはマンションが新設され若い親世代や子どもも増加傾向にある。今後は、これまでの高齢者向けの取組み（健康麻雀）に加えて、他の世代も参加できるような事業の企画が期待される。
- 上記の新たな取組みを行う上でも、運営委員・協力員の更なる拡充が求められている。
- エレベーター設置等の改修工事でリニューアルされた館を生かし、居心地の良い開かれた空間の演出によって、交流がより活発になることを期待する。

(2) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

<p>利用者への配慮と適切な対応</p>	<p>【現状】年に1回、各サークルに案内を出し、各2名までの参加で利用者懇談会を行っている。</p> <p>【工夫している点】子育て世代の利用増加を目的として、市との共催事業である「親子ひろば」を開催している。「子どもルーム」などの自由に遊びまわれる部屋はなかったが、和室を代用することで開催が可能となった。</p>
-----------------------------	--

新 しい利用者・ 利用団体の増加	【現状】 健康麻雀の人気が高く、多くの参加者が集まっている。現状では、高齢者の利用が多く、高齢者向けの事業が多い。一方で、駅に近く立地条件が良いことから、若者の利用も増えつつあり、比較的地域外の人利用も多い。
施 設の利用方法 の工夫	【現状】 自由に入出入り出来るオープンスペースというよりも、細かく会議室に区切られた作りになっている。一方で、中庭にウッドデッキがあり、親子連れなど、人が集まるスペースとしての活用を検討している。
情 報の提供	【現状】 コミセンに関わる情報は、町会やマンションの掲示板に掲示し、各住宅には回覧板を通してお知らせしている。

② 地域におけるネットワーク機能

利 用者・利用団体 とコミセンとの つながりづくり	【現状】 コミセンまつりでは、展示・芸能等の発表のほか、終了後、反省会や懇親会を行っている。 【工夫している点】 利用者間のつながりづくりのため、健康クラブの日程に合わせて、ロビーで「みんなでカフェ」を開催しており、利用者がお茶やコーヒーを飲みながら交流することができている。
地 域とコミセン のつながりづくり	【現状】 老人会や青少協、御殿山町会等の地域団体メンバーと運営委員が重複している。 【工夫している点】 地域団体と運営委員が重複していることで、連携につながっている。また、防災訓練等、共通の目的に対し地域の諸団体と協力して取り組んでいる。

③ 持続可能な協議会の運営

運 営委員・協力員 の人材充実	【現状】 事業をきっかけにコミセンに来てくれた人と交流する場を設け、協議会運営に興味を持ってもらえるような取組みをしている。
持 続可能な事業 の実施	【現状】 高齢者向けの事業が多いが、今後は子どもを対象とした事業を増やしていきたいと検討している。 【工夫している点】 子どもに人気のあった事業で、「みんなで忍者」というものがあったが、主催団体の拠点移転に伴い、事業の継続が困難になったため、子どもを対象とした市との連携事業である「コミセン親子ひろば」に新たに取り組んだ。また、高齢者向けの健康

	麻雀など、他にも新たな取組みを実施している。
活 発 な 協 議 会 運 営	【現状】 若い世代の利用が増えている等、利用者を把握・分析し、運営に関わる人を増やすための次の取組みについて模索している。

5. 本町コミュニティセンター協議会

(1) 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

【①特筆すべき点】

- センター祭のクイズラリーを通して、普段コミセンを利用しない周辺住民に対してもコミセンを知ってもらう等、新しい利用者確保に向けた取組が積極的に行われている。
- 東部街づくり協議会等との共催で行う元気市を、センター祭と一体的なイベントとするなど、面的な活動によって地域とのつながりを創出している点が特徴的である。
- 駅から非常に近く、周辺の事業所の勤務者や市外利用者の一時利用が多いが、サロンのテーブルの小型・軽量化はそのような利用者の快適さ向上にも寄与している。結果として、市外利用者とコミセン利用者との交流が生まれている。

【②今後期待すること】

- 今後も周辺地域の環境浄化を軸とした地域活性化に、引き続き取り組んでほしい。
- 市外利用者が多い状況は、施設運営上難しい面もあるが、多様な人々との交流のチャンスととらえ、利用者と地域住民との交流を生み出しつつ、地域をつなげる活動を続けていってほしい。
- 運営委員の固定化に対して、運営委員会に参加しやすくするため、開催時間を見直すなど努力しており、今後も様々な改革に取り組んでほしい。

(2) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

<p>利 利用者への配慮と適切な対応</p>	<p>【現状】 吉祥寺駅が近くにあり、市内・市外の幅広い層が来館している。1階のサロンスペースは誰でも自由に会話ができる環境になっており、学習、小グループによる打ち合わせや趣味の活動だけでなく、駅周辺での所用途中の方や近隣に勤務する方が休憩場所として利用している。</p> <p>【工夫している点】 利用者ニーズの変化を考慮し幅広い層の利用に対応できるよう、和室にも和室用可動式のテーブルと背もたれ椅子を置くなどして利用者の利便性向上を図っている。また、利用者が</p>
-------------------------------	---

	すぐに使えるよう、常時ポットにお湯を用意している。
新 しい利用者・利用団体の増加	<p>【現状】近隣に集合住宅が増えている。より多くの方たちにコミセンを利用してもらえるよう、新しい事業企画を検討している。</p> <p>【工夫している点】創立 40 周年にあたりコミセン周辺の歴史を振り返る「地域を知る会」を 3 回開催し、新しく地域に移り住んできた方々にも吉祥寺駅東部地区の環境浄化対策の一環としての成り立ちを伝えた。さらに、その内容をまとめた記念誌を発行・配布し、館内でも利用者・利用団体の方が閲覧できるようにしている。</p> <p>最大事業の「センター祭」では、同様に環境浄化対策の役割を持つ近隣の施設（吉祥寺図書館・吉祥寺シアター）と連携し、3 施設の場所を巡るクイズラリーを開催した。</p> <p>【特筆すべき成果】クイズラリーを通じて、コミセン利用者だけでなく周辺に居住する方や地域を訪れる方々に地域の施設を知ってもらうきっかけづくりにつながった。</p>
施 設の利用方法の工夫	<p>【現状】エレベーターが無いために、2 階・3 階を利用できない団体は 1 階サロンを利用している。また、学習室が無いため、学習する人もサロンを利用している。</p> <p>【工夫している点】サロンの多様な使われ方に対応するために、テーブルを小型・軽量化したことで使い勝手が良くなり、利用人数が増えた。</p>
情 報の提供	<p>【現状】1 階サロンで「むさしの FM」を流すことで、地域の情報提供をするとともに、居心地の良い雰囲気づくりを心掛けている。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利 用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり	<p>【現状】「センター祭」開催前には利用者説明会・懇談会を開催し顔合わせを行っている。「センター祭」ではコミセン主催教室の作品展示や、利用団体も参加する芸能発表等、利用者・利用団体の協力を得ながら開催している。</p> <p>【工夫している点】「センター祭」を吉祥寺東部地区街づくり協議会との共催で行う「元気市」（周辺道路での出店やフリーマーケット）と同時開催し、街のイベントとして地域の方や団体と共に活動している。</p>
地 域とコミセンのつながりづくり	<p>【現状】東日本大震災の際に、市からの要請で帰宅困難者の受け入れを行った。立地が吉祥寺駅近くであり地域の中での役割は大きい。また、東日本大震災を経験したことで地域の絆の重要性を認識し、絆づくりの一環として「まちをきれいに」というコミセン周辺</p>

	<p>の清掃美化活動を始めた。</p> <p>【工夫している点】東日本大震災の後、「まちをきれいに」を毎月第一日曜日午前9時からの定期開催にし、8年間継続している。清掃活動終了後は地域の情報交換を行い、参加者の交流を図っている。活動が知られてきたことで、参加者の幅が広がり、人数も増えてきている。</p>
--	--

③ 持続可能な協議会の運営

<p>運 営委員・協力員 の人材充実</p>	<p>【現状】協議会の活動を知ってもらうため、定期的なコミセンだよりの発行やホームページの更新などの広報活動を行っている。</p>
<p>持 続可能な事業 の実施</p>	<p>【現状】毎年度講座を企画しているが、参加人数や人気度を見ながら精査している。</p> <p>【工夫している点】主催事業ではない講座でも、受講者から継続の要望があれば、協議会が事業化し、継続するといった取組みをしており、地域ニーズの取り込みを行っている。</p>
<p>活 発な協議会 運営</p>	<p>【現状】運営委員会等の参加者が一部の委員に固定化している。</p> <p>【工夫している点】運営委員会等に参加しやすくするため、開催時間の見直しを行った。</p>

6. 吉祥寺西コミュニティ協議会

(1) 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

【①特筆すべき成果】

- 利用団体に利用者懇談会へ参加してもらい、コミセンとの関係性作りや団体同士のネットワークづくりを行っている。また、地域懇談会をきっかけに「井之頭通り美化活動」が始まっており、地域の方たちのつながりが継続している。
- 「あそぼうよ」事業には地域の小学生が参加し、学校・学年を超えた交流が生まれるなど、地域におけるつながりづくりにも寄与している。
- 分館も含め、多彩な活動が工夫して行われている点は特徴的である。長年継続している事業の中には、食器のリサイクルなど環境問題の視点から近年改めて注目される事業もある。

【②今後期待すること】

- 運営委員・協力員のさらなる確保など、一層の人材充実に期待したい。
- 利用者や地域との関係性を活かして、今後も多彩な活動を継続してほしい。
- 住宅地の中にあるので、近隣住民の理解を得られるような活動の工夫が期待される。
- 各部屋の利用率が比較的高いが、茶室や和室の利用率を上げる工夫に期待したい。

(2) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

<p>利 利用者への配慮 と適切な対応</p>	<p>【現状】利用者から要望や苦情があった場合、毎月開催している窓口担当者会議で検討し、改善に取り組んでいる。</p> <p>【工夫している点】窓口業務のマニュアルを作成し、利用者へのサービスの均一化に努めている。利用者からクレームがあった場合は、連絡帳に記入し情報を共有できるようにしている。</p>
<p>新 しい利用者・利 用団体の増加</p>	<p>【現状】練習室やプレイルーム、サロンは個人の利用を認めているため、楽器・ダンスの練習や2・3人の懇談等でよく活用されている。プレイルームは、他市の利用者も多い。</p> <p>【工夫している点】個人利用ができる部屋があることで、少人数でも気軽にコミセンを利用できる雰囲気ができている。</p>

施設 の利用方法 の工夫	<p>【現状】分館については、演劇練習や体操等、大きな音を発するような活動で利用されることが多い。</p> <p>【工夫している点】エントランスには園芸クラブで育てた鉢植えを置いて、来館者が四季を感じられるようにしている。</p>
情報 の提供	<p>【現状】「コミセンだより」を年5回発行し、地域のほぼ全戸に配布している。地域に8か所の掲示板を設置し、各事業のお知らせをしている。館内の壁面や掲示板を使って、協議会の歴史や地域団体の活動紹介を行っている。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利用者・利用団体 とコミセンとの つながりづくり	<p>【現状】利用者懇談会を開催している。利用者懇談会では、コミセンの利用方法、施設の問題などについて様々な意見交換を行っている。また利用者・利用団体には、コミセンまつりへの作品の出展依頼や年末大掃除の協力をその都度お願いしている。</p> <p>【工夫している点】コミセンを頻繁に使用する団体に対しては、予約時等に利用者懇談会への出席や年末大掃除の依頼をしている。</p>
地域 とコミセン のつながりづくり	<p>【現状】地域懇談会を年2回開催している。</p> <p>【工夫している点】地域懇談会では毎回テーマを設定して、地域で活動する団体間で現状と課題の共有を図っている。</p> <p>【特筆すべき成果】地域懇談会での意見がきっかけとなり、地域の方たちとともに「井ノ頭通り美化活動」などがスタートし、現在も継続している。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

運営委員・協力員 の人材充実	<p>【現状】協力員として約70名が登録しているが、登録した協力員が皆参加できるとは限らない。コミセンだよりで募集をしているが、新たな担い手の獲得にはつながっていない。</p>
持続可能な事業 の実施	<p>【現状】年間を通して、継続的に週1回以上の事業を実施している。</p> <p>【工夫している点】事業は多いが、大きな負担にならないよう担当を分けている。また福祉の会をはじめ、諸団体との共催事業を多く実施している。利用者からのニーズや運営委員の実情を鑑みて、事業の精査を行っている。</p>
活 発な協議会 運営	<p>【現状】毎月、運営委員会・役員会・窓口担当者会議を開催している。窓口業務に関する事項を協議し、円滑・適切なコミセン運営を行っている。</p>

7. 吉祥寺北コミュニティ協議会

(1) 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

【①特筆すべき成果】

- 広い施設を活用し、文化祭、コンサート、地域フォーラムなど、多彩な活動を展開している。大規模館であるが、立地的な視認性の良さやロビーの解放感から、入りやすい雰囲気が醸成されている。
- さわやかまつりでは、ペットボトルの手作りのお神輿での老人ホーム訪問や、地域団体の発表など、地域と連携した、地域住民との距離が近い取組が多い点が特徴的である。さわやかまつりを通して、各種の団体がコミセンのその他の行事等に参加してくれる割合が高まったという点も特筆できる。
- 地域の小学校の会議体に、コミセン運営委員が参加するなど、地域とのつながりづくりも積極的に行われている。

【②今後期待すること】

- 地域住民や団体とのネットワークを活かして、地域に身近なコミセンであり続けてほしい。
- 運営委員は18名と少ないが、協力員との交流会が催され、連携がうまく取れていると思われる。今後も、協力員と連携した継続的な運営を期待したい。
- **運営委員一人の負担が大きいと思われるので、運営委員を増やす努力に期待したい。**

(2) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

<p>利用者への配慮と適切な対応</p>	<p>【現状】地域の団体にはロッカーや倉庫のスペースを提供している。</p> <p>【工夫している点】夏季の体育室は高温になりやすく、利用者への声掛けや保冷剤を渡す等の対応を行っている。また、利用者からの意見を取り入れて、部屋の利用要件の改善にも取り組んでいる。</p>
-----------------------------	---

新 しい利用者・ 利用団体の増加	<p>【現状】「北町さわやかまつり」は、コミセン利用者が主催側となり開催している。</p> <p>【工夫している点】「北町さわやかまつり」は過去のコミュニティ評価委員会報告を受けて、地域の諸団体も巻き込んで行っている。結果として、団体同士の交流が生まれている。</p>
施 設の利用方法 の工夫	<p>【現状】ロビーは貸出をしていないが、気軽に来館できるよう、協議会主催で講演会やコンサート等を行っている。体育館を活用した「文化祭」では地域の小中学生による演奏会が行われている。</p> <p>【工夫している点】ロビーの一部を作品展示スペースにして、保育園児や地域住民の作品を展示しており、徐々に作品を提供してくれる方が増えている。今後、作品展示を通じ、家族をはじめ、より多くの来館者を呼び込もうとしている。</p>
情 報の提供	<p>【現状】コミュニティ便りを毎月 3,900 部発行し、事業内容等をお知らせしている。</p> <p>【特筆すべき成果】地域住民へ本市の友好都市であるルーマニアを知ってもらう目的で、「ルーマニアを知ろう」というテーマで地域フォーラムを開催した。ルーマニア人のダニエル氏による産業や歴史、文化の紹介や、ルーマニアワイン・料理によりルーマニアの魅力を感じ、ホストタウンの意味も理解できる事業となった。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利 用者・利用団体 とコミセンとの つながりづくり	<p>【現状】「北町さわやかまつり」や「文化祭」終了後には地域の諸団体とともに反省会を行っている。</p> <p>【工夫している点】反省会を行ったことで、利用団体間で施設運営・利用に関する今後の課題について検討している。</p> <p>【特筆すべき成果】「北町さわやかまつり」の成果としては、各種の団体がコミセンのその他の行事等に参加してくれる割合が高まった。</p>
地 域とコミセン のつながりづくり	<p>【現状】北コミ市場では、地元農家の協力により新鮮な野菜を提供している。15年以上続いている取組みで地域に定着している。</p> <p>【工夫している点】地域の方から寄贈されたグランドピアノを使って、地域の方へ音楽を楽しんでもらえるよう、演奏会を定期的に開催している。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

<p>運 営委員・協力員 の人材充実</p>	<p>【現状】 運営委員が 18 名と少ないため、各運営委員の負担が大きい。各団体からの参加、個人的な口コミでの依頼などを試行している。</p> <p>【工夫している点】 運営委員は北町の住民には限っておらず、八幡町や吉祥寺本町など他地域に在住の人も受け入れている。</p>
<p>持 続可能な事業 の実施</p>	<p>【現状】 「パソコン学習会」は 19 年の歴史があるが、運営する側も高齢になってきており、参加者数も減っている。基礎編と応用編に分けて実施しているが、今後中止するのか、形を変えて実施するか（スマートフォン研修など）検討している。</p>
<p>活 発 な 協 議 会 運営</p>	<p>【現状】 若い運営委員が入ってきて、世代交代が進みつつある。</p> <p>【工夫している点】 運営委員会を一部午前から夜間に変更し、日中仕事がある方も参加しやすくなるように改善している。</p>

8. けやきコミュニティ協議会

(1) 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

【①特筆すべき成果】

- 文化祭・ミニコンサートを継続的に開催し、それぞれの活動内容を発表する場となっている。ここでの交流を通し、利用者・利用団体同士の活発な交流が生み出されている。
- 活動を通して運営に関わるようになる流れがスムーズで、多数の運営委員・協力員がいる点は特筆できる。
- コミセン運営にあたり「まちづくり局」というチームが組成されており、運営委員・協力員によって自主的にプロジェクトが立ち上げられている。運営メンバーの自由な発想を支援し、活躍の場を設けることで、運営メンバーのやりがいの向上と定着につながっている。
- 施設の予約状況をホームページ上で公開する取組も特筆すべき点といえる。公平性を守るため、施設の予約受付は行われていないということだが、Web上で予約状況の確認ができることの利便性は高い。

【②今後期待すること】

- コミュニティについて自由に発言できる場である「けやき学舎」や、より気軽に対話できる「しゃべり場」を設けることで、活発な協議会運営につながっていると考えられる。今後も、運営委員や地域住民による活発な対話の創出を期待したい。
- 新しい運営委員に仕事を任せて、その能力を引き出す方法が他のコミセンにも共有されていくことが期待される。
- エレベーターが設置され、今までの事業を受け継ぎながらも、新鮮な発想で新しいことに挑戦して、新たな人と人とのつながりが生まれることを期待したい。
- 地域の団体を繋げ、議論の場を提供し、課題・提案に取り組み地域の核となるような役割を期待する。

(2) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

利用者への配慮 と適切な対応	<p>【現状】施設の使い方等を、書面（掲示物）に頼らず説明している。</p> <p>【工夫している点】コミセン内での禁止事項記載の貼り紙は極力少なくし、伝えたいことは言葉で伝え、会話を大切にしている。</p>
新しい利用者・ 利用団体の増加	<p>【現状】近隣に新たな住宅地ができていますが、まだ利用者として巻き込めていない点が課題である。</p>
施設の利用方法 の工夫	<p>【現状】施設が公園に隣接している。窓が広く、学習室に座っている人達も緑に囲まれて勉強するような雰囲気がある。ギャラリーがあり、絵や写真の展示会などを行うことができる。</p> <p>コミュニティルームは、誰でも自由にお茶を飲んだりお弁当を食べたりすることができ、一人で来ても心地よくいられる場所にしてある。</p> <p>受付の作りが開放的で、仕切りをつくらずに利用者と一緒に話をしながら様々なことができるように空間を作っている。</p> <p>【工夫している点】設えの異なる2つのスペースを学習室として提供し、利用者はニーズに応じて使い方を選択できる。</p>
情報の提供	<p>【現状】年4回コミュニティニュースを発行して、地域にイベント等をお知らせしている。</p> <p>【工夫している点】施設の予約状況をホームページ上で公開している。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利用者・利用団体 とコミセンとの つながりづくり	<p>【現状】練馬区と隣接するコミセンであり、開けたコミセンを目指して、市内外問わず利用者を受け入れている。</p> <p>【工夫している点】けやきまつり、けやき夏まつり、どんど焼きとむかしあそびの三大イベントは、地域に密着したイベントであると同時に、多くの利用者とのつながり構築のきっかけとなっている。</p> <p>【特筆すべき成果】3年ほど前から利用者・利用団体に呼びかけ、文化祭・ミニコンサートを開催した。それぞれの活動内容を発表・交流することを通して、利用団体同士のつながりが生まれている。</p>
地域とコミセン	<p>【現状】障害者、高齢者の施設など、地域の多くの組織とつながり</p>

のつながりづくり	<p>を持っている。大野田小・四中とのつながりが深い一方で、幼稚園、保育園とのつながりはまだ薄い点が課題である。</p> <p>【工夫している点】地域防災の会を立ち上げたり、福祉の会や大野田地域子ども館推進会議、青少協に運営委員から委員として参加し、その活動を運営委員会で共有したりしている。</p>
----------	--

③ 持続可能な協議会の運営

<p>運営委員・協力員 の人材充実</p>	<p>【現状】運営委員全員が係を担っている。</p> <p>【工夫している点】運営委員全員がそれぞれの適性に合った係を担うことで、やりがいを持って活動できている。</p> <p>【特筆すべき成果】一人ひとりの負担を小さくすることで、協議会運営に参加しやすいため、運営委員数も多い。</p>
<p>持続可能な事業 の実施</p>	<p>【現状】けやきまつり、けやき夏まつり、どんど焼きとむかしあそびの三大イベントでは、実行委員会制をとっている。</p> <p>【工夫している点】運営委員を3つのグループに分け実行委員会を立ち上げている。そのほかに130人程度いる協力員もスタッフとして入り、実行委員会で準備をしている。</p> <p>【特筆すべき成果】実行委員会は20名程度いるため意見がぶつかることもあるが、話し合いをしながら作り上げる中でチームワークや協力体制ができて、最終的に組織のチーム力のアップにつながっている。</p>
<p>活発な協議会 運営</p>	<p>【現状】「まちづくり局」というチームを設けている。個々のチームが様々なアイデアを出し合って、それぞれプロジェクトを立ち上げている。</p> <p>【工夫している点】「まちづくり局」は運営委員が1人、合計3人以上いればチームとして成立し、活動をする上でのハードルを下げている。</p> <p>【特筆すべき成果】「まちづくり局」は新たに地域活動を行いたいと考えている人が自由に取組みを行える場になっている。そうした活躍の場を設けることで、やりがいを高め、運営委員への関心の拡大と定着の推進につなげている。</p>

9. 中央コミュニティ協議会

(1) 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

【①特筆すべき点】

- 立地の良さから市外を含めた多様な市民が利用しており、こうした多様な利用者・利用団体を巻き込んだ協議会の運営を行っている点が特徴である。具体的には、「夏まつり」「文化祭」「もちつき」といった各種イベントの運営にあたって、小中学校や地域の各種団体の協力関係を構築している。
- また、ロビーの貸出による各団体の活動展示や、利用者・利用団体が参加する館内清掃を通して、利用者・利用団体間のネットワークづくりの機会をつくっている。

【②今後期待すること】

- 「ストレッチ教室」では利用者が多いものの中高年の方が多いことから、より幅広い年齢層の関わりを増やし、世代間交流の機会を創出することが期待される。第一中学校生徒の利用も多いが、「一中フェスタ」など部屋の貸出が中心であることから、夏まつりや餅つきのように若年層の協議会主催事業への参加促進が期待される。
- 現状では、事業・イベントの運営に利用者や利用団体が協力することが中心であるが、今後はそれらをきっかけにして、運営委員・協力員として協議会運営に参画する人を増やしていくことが期待される。
- 本館内部のリニューアルに伴い、新しい地域コミュニティづくりの展開が期待される。

(2) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

利 利用者への配慮 と適切な対応	<p>【現状】改修工事（平成 30（2018）年 12 月～令和元（2019）年 7 月）に伴う中央コミセンの長期休館の影響で中町集会所への予約申し込みが集中し、早朝から並ぶ利用者が多かった。</p> <p>【工夫している点】中町集会所においては近隣住民への影響を鑑みて、運営委員会で協議を重ね、平成 30（2018）年 11 月から、予約開始時間を午後からに変更した。変更にあたってしばらくの間、声掛けや掲示物での周知を行ったため、混乱なく変更ができた。なお、中央コミセンの改修工事が完了して申し込みが落ち着いたことと利用者の意向を踏まえ、令和 2（2020）年度からは予約開始時間を元に戻している。</p>
新 しい利用者・ 利用団体の増加	<p>【現状】地域行事に参加することで、地域の輪を広げている。大型館であること、交通アクセスがよいこと、市外利用を認めていること等から、市外も含めて多様な市民・地域団体が利用している。</p> <p>【工夫している点】来場者の多い「武蔵野桜まつり」に毎年協力し、プラ板でアクセサリなどを作るブースを出しており、協議会の活動を知ってもらうきっかけをつくっている。</p>
施 設の利用方法 の工夫	<p>【現状】中央コミセン舞台付き大広間は、使い勝手が良く利用団体からは好評である。また、改修後は調理室、トイレともに明るく衛生的で使いやすくなった。利用者からはエレベーター設置の要望が出ている。中町集会所は三鷹駅に近く交通の便が良いため、他市からの利用者が多い。</p>
情 報の提供	<p>【現状】コミセンだよりを年 4 回、各 5,200 部発行している。</p> <p>【工夫している点】コミセンだよりでは、協議会・地域の情報、地域団体・イベント等の紹介をしている。また、地域の小学校へ子ども参加の事業のチラシ配布をお願いしている。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利 用者・利用団体 とコミセンとの つながりづくり	<p>【現状】中央コミセンのロビーをミニギャラリーとして利用団体に貸し出している。</p> <p>【工夫している点】館内清掃では利用団体に呼びかけを行い、中央コミセン・中町集会所合わせて80～100名程度の参加がある。</p>
地 域とコミセン のつながりづくり	<p>【現状】「夏まつり」「文化祭」「もちつき」は中央コミセンの3大イベントであり、中央コミセン正面にある第一中学校生徒の協力を得ている。「夏まつり」「文化祭」では、地域団体などに模擬店の出店を依頼している。そのほか、「文化祭」では地域の小中学校の児童・生徒及びデイケアセンター、利用団体の作品発表の場として、1週間ほどロビーにて展示を行っている。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

運 営委員・協力員 の人材充実	<p>【現状】運営委員が不足している。当該エリアに新設されたマンション入居者にも夏まつり、文化祭、その他の事業に参加してもらい、コミセン理解から始める予定である。</p> <p>【工夫している点】コミセンが次世代につながるためには、小中学生に関わってもらうことが重要なので、小中学生向けの事業の充実（中コミキッズフェスタや流しそうめん等）を図っている。</p>
持 続可能な事業 の実施	<p>【現状】これまで、ストレッチ教室以外の事業は中央コミセンで行っていたが、改修工事による7か月の休館をきっかけに、令和元（2019）年度は中町集会所でも事業を開催した。</p> <p>【工夫している点】中央コミセン・中町集会所と2つの施設がある利点を活かして、今後、両館を活用した事業を検討している。</p>
活 発な協議会 運営	<p>【現状】毎月一回の運営委員会を中心に、運営委員全員が協議会運営に携わっている。</p>

10. 西久保コミュニティ協議会

(1) 総括及び今後期待すること (評価委員会よりコメント)

【①特筆すべき点】

- 多摩湖往復ナイトハイクといった特徴的な活動を継続的に実施している。当該イベントを実施する際には、大学生や地域団体の協力を得ることで、大規模な事業を継続的に開催している。同様に、「地元感謝祭」「ふれあいまつり」も多様な地域団体と共催している。このように、協議会が拠点となって、様々な団体が連携して事業を実施する体制ができている。
- 利用団体である「きらめきライフ多摩」などと共催で、子ども科学教室や天体観望会といった新たな事業を企画・実施している。
- 毎年度の期初に各団体の代表者が集まり、年間スケジュールを共有・調整する話し合いの場を設けるなど、連携を推進する上での工夫を行っている。
- 施設利用にあたって電話の仮予約ができるようにするなど、利用しやすい施設運営を行っている。

【②今後期待すること】

- 引き続き、利用団体や地域団体との連携による事業展開を行うとともに、それをきっかけに、事業・イベントだけではなく、協議会運営にも参画する人材の確保・育成が期待される。
- 特徴的な活動であるナイトハイクを維持するために、大学生などに協力を求めているが、このような試みが新しい成果を生むことが期待される。
- 今後も利用しやすく交流が生み出されるような時代に合った運営の工夫がなされることを期待する。

(2) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

利用者への配慮と適切な対応	<p>【現状】窓口対応に関する取組みとして、2カ月に1回の頻度で窓口会議を開催している。</p> <p>【工夫している点】利用者の要望を反映して、休館日を月1日とした。また、利用者の利便性向上のため、電話による仮予約を可能とし、3日以内に窓口で本予約を受け付けている。</p>
---------------	--

新 しい利用者・利用団体の増加	【現状】 多摩湖ナイトハイクやこども科学教室など、子ども向けの事業に力を入れていることから、子どもや若年層の利用が多くなっている。また、子育て関係の団体の利用が多いのが特徴である。
施 設の利用方法の工夫	【現状】 夜間に大声や音を出す活動（演劇等）を行う団体がある。 【工夫している点】 利用時間帯や活動内容に合った部屋を案内（例：夜間に大声や音を出す活動は地下の利用や音のセーブを依頼）している。
情 報の提供	【現状】 年4回、コミュニティだよりを約6,400部発行している。 【工夫している点】 コミュニティだよりに協議会の主催事業やコミセンの利用案内（部屋ごとの使い方）を毎号掲載し、コミセンの周知をしている。

② 地域におけるネットワーク機能

利 用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり	【現状】 コミュニティだよりで利用団体の紹介を掲載している。 親子ひろばの「西久保コミセンひろばピノキオ」など、市や他団体との共催事業を通して、その利用者間のつながりが生まれている。
地 域とコミセンのつながりづくり	【現状】 「地元感謝祭」や「ふれあいまつり」などの大規模事業等を地域の様々な団体との共催で実施している。西久保コミセンが拠点となって、さまざまな団体が連携して事業を実施する体制ができている。 【工夫している点】 共催を実現するための工夫としては、毎年度の期初に、地域の各団体の代表が集まって、各団体の年間スケジュールを共有・調整する話し合いの場を設けている。そこで、イベント時期等が被らないよう調整したり、共催の可能性について議論したりしている。

③ 持続可能な協議会の運営

<p>運営委員・協力員 の人材充実</p>	<p>【現状】運営委員が高齢化する中で、事業運営の人手が手薄になってきている。</p> <p>【工夫している点】運営委員の人数の拡大はすぐにはできないので、近年では事業を実施する際は基本的には他団体との共催事業とし、幅広い主体を巻き込むことで事業を実現している。</p>
<p>持続可能な事業 の実施</p>	<p>【現状】運営委員の高齢化も進む中で、「多摩湖ナイトハイク」など大規模事業の継続的な実施が体力的に難しくなっている。</p> <p>【工夫している点】関前コミセンと青少協の第5地区、関前南地区、五中のPTAの5団体で共催事業として実施しており、現在では、亜細亜大学の学生にもボランティアとして参加してもらっている。</p>
<p>活発な協議会 運営</p>	<p>【現状】協議会会則などの見直しを検討している。</p> <p>【工夫している点】役員の選任方法等の会則の見直しを検討するにあたり、参考とするため他の協議会にアンケートを実施した。</p>

11. 緑町コミュニティ協議会

(1) 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

【①特筆すべき点】

- 町会や商店街など10団体程度とともに「緑懇話会」を開催し、地域課題の解決に向けた取組を積極的に行っている。過去には、緑懇話会での話し合いと関係機関への働きかけによって地域の交通環境が改善された（新たなバスルートの開通）こともある。
- また、地域ふれあいまつりの実施にあたっては、(公財)生涯学習振興事業団にコミュニティセンター北側のテニスコートを借りることで広いスペースで企画ができるなど、隣接するクリーンセンターも含め地域の団体・関係機関とのネットワークを活用して、事業をより魅力的なものにしている。
- 多様な市民の利用を促進するために、「みんなの広場」という世代を問わず誰もが参加でき、自由に楽しめる事業を実施し、気軽にコミセンを訪れるきっかけをつくっている。
- 運営委員の人材確保にあたって、まずは協力員になっていただいた後に運営委員になってもらうなど段階的な人材確保の工夫をしている。

【②今後期待すること】

- 持続的な協議会運営に加えて、特徴的かつ有効的な取組である「緑懇話会」の推進を通して地域の他団体・関係機関との連携を強化し、コミュニティセンターが地域課題の解決の拠点になるようなモデルづくりを引き続き期待する。
- テニスコート利用者との日常的な交流を考えることはできないか、工夫を期待したい。
- 引き続き運営委員の確保とより幅広い世代の参画に期待したい。

(2) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

<p>利用者への配慮と適切な対応</p>	<p>【現状】午前9時30分から午後9時30分の開館時間だったが、並んで開館を待つ利用者がある一方で、夜間の利用者は少なかった。</p> <p>【工夫している点】利用者の利用状況を鑑みて、開館時間を30分繰り上げた。</p>
-----------------------------	--

新 しい利用者・ 利用団体の増加	<p>【現状】世代を問わず、誰もが参加できるように「みんなの広場」という事業を実施している。</p> <p>【工夫している点】フラダンスや音楽鑑賞などテーマを決める時もあれば、テーマを決めず、自由に楽しめる場を用意し、気軽にコミセンを訪れるきっかけをつくっている。</p>
施 設の利用方法 の工夫	<p>【現状】エレベーターが設置されたことで、車いすの方でも2階が利用できるようになった。地域ふれあいまつりでも、エレベーターができたことで、展示物を2階に設置することができた。</p> <p>【工夫している点】部屋の出入りを容易にするため、スロープを用意し、段差の解消を図った。</p>
情 報の提供	<p>【現状】コミセンだよりの作成・編集作業は、担当の負担が大きく課題がある。</p> <p>【工夫している点】継続して情報発信をするために、掲載する情報量に応じて紙面の増減を柔軟に調整している。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利 用者・利用団体 とコミセンとの つながりづくり	<p>【現状】地域ふれあいまつりでは、利用団体や地域の各団体に積極的に参加を呼びかけ、相互につながる機会をつくっている。</p>
地 域とコミセン のつながりづくり	<p>【現状】事業を実施する上で、地域の様々な団体との連携に注力している。</p> <p>【工夫している点】地域ふれあいまつりでは、地域の保育園や高齢者施設による作品の展示などを行っている。また、青少協の協力を得て、子ども向けの事業（テニスコートを活用したイベント等）を実施している。また、第四中学校とは、防災訓練などへのコミセン委員の参加などを通じてつながりをもっている。</p> <p>【特筆すべき成果】コミセンも参加して、町会や商店街など10団体程度の地域団体が集まって、地域課題について話し合う「緑懇話会」を実施している。過去には、地域の交通アクセスについて緑懇話会で話し合い、市とバス会社に要望し協議を進めることで、緑町2丁目のURと都営住宅間の道路整備と新たなバスルートの開通（平成24年）につながった。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

<p>運 営委員・協力員 の人材充実</p>	<p>【現状】子どもまつりなどのイベント実施時に、大学生にボランティアを手伝ってもらっている。</p> <p>【工夫している点】いきなり運営委員になってもらうことは難しいため、まずは協力員になっていただいた後に運営委員になってもらうなど段階的に人材を集めている。若い人の中には、地域ふれあいまつりで焼きそばを作るなどのスポット的な関わりであればできるという人も多いことから、まずは協力員として参加してもらっている。また、地域ふれあいまつりに来てくれた若い参加者にも声かけを行っている。</p>
<p>持 続可能な事業 の実施</p>	<p>【現状】コミセンに来られない方にも協議会の事業を楽しんでもらうため、出前講座を開催している。</p> <p>【工夫している点】上記事業は、高齢者はコミセンまで行くのが大変であるという「地域懇談会」で出た意見を反映したものであり、コミセンを離れ、近隣の都営住宅の集会所で輪投げ大会や演奏会を開催し、地域に密着したコミュニティ活動を行っている。</p>
<p>活 発な協議会 運営</p>	<p>【現状】毎月窓口会議を開催している。</p> <p>【工夫している点】気を付けることや、対応する上での疑問点などを話し合うことで、協議会全体で情報の共有や問題解決が適切にできている。</p>

12. 八幡町コミュニティ協議会

(1) 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

【①特筆すべき点】

- マチコミや SNS（ツイッター、インスタグラム）などの新たな発信媒体を活用し、今までコミセンを利用したことのない層への情報発信に注力している。それらを通して、事業への参加者が増えたり、運営委員に加入したりする例が生まれている。
- 「新春のつどい」や「はちコミまつり」において、利用団体の活動内容を展示する機会を設け、相互理解を深める機会を創出している。また、意識的に各利用団体のニーズを拾い、利用団体間で共催事業につなげることができないか働きかけを行っている。
- 地域の団体と共催することで、様々な事業を実施することができている。また、特に千川地域福祉の会・千川地域防災会・青少協千川地区・千川小PTAや、千川おやじーズといった地域の団体と積極的に交流し、相互に協力する体制を構築している。
- 空いている部屋の別用途への活用など、施設利用に関して非常に柔軟に運用することで、利用者ニーズに対応している。

【②今後期待すること】

- 情報発信方法の工夫や、地域の関係団体との協力体制の構築など、他の協議会の参考となる先駆的な取組を引き続き行っていくことに期待したい。
- 周辺に対して開放的な設計になっているので、その特性を生かした運営を工夫していくことが期待される。

(2) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

<p>利 用者への配慮 と適切な対応</p>	<p>【現状】住宅街にあり、また、高校生などが勉強で利用することが多い。</p> <p>【工夫している点】多くの方に利用してもらうため、当日その時間帯に部屋が空いていれば、1名からでも申し込みを受け付けて2時間まで利用ができるようにしている。また、ホームページで予約状</p>
-----------------------------------	--

	況が確認できるようになっている。
新 しい利用者・ 利用団体の増加	<p>【現状】子どもを対象にした事業を増やしたことで、保護者と子どもとの利用が増えている。</p> <p>【工夫している点】子ども向けのクッキング教室を開催するなど、親子で楽しめる事業を展開している。</p>
施 設の利用方法 の工夫	<p>【現状】2階ラウンジを、学ぼうルーム利用者の一時休憩場所として、また、事前予約ができない2人以下の利用者が当日記名のみで利用できる場所としている。</p> <p>【工夫している点】学ぼうルームが満員になる時期は、空いている部屋を学ぼうルームとして開放、また、ロビー利用者の多い場合は机・椅子の数を増やしたり、和室が空いていれば和室をロビーとして開放したり、状況に応じて柔軟に対応している。</p>
情 報の提供	<p>【現状】2カ月に1回コミセンだよりを約2,400部発行するほか、市報、ポスター(地域に15か所)、ホームページで協議会の事業案内や地域行事等を情報発信している。</p> <p>【工夫している点】事業の内容により、千川小学校でのチラシ配布、千川小学校PTA便りへの掲載、千川小学校保護者が登録している「マチコミ」のメール配信、青少協ホームページへの掲載、地域団体へのポスター・チラシの設置など、地域と連携を密にとりながら情報を発信している。</p> <p>【特筆すべき成果】マチコミ利用で保護者に直接情報が届き、今まで利用したことのない層の方が事業に参加するなど、コミセン運営に興味を持ち運営委員の加入につながった。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利 用者・利用団体 とコミセンとの つながりづくり	<p>【現状】新春のつどいやはちコミまつりでは、利用団体間の交流の機会になっている。また、利用者懇談会を開催し、コミュニティセンター利用にあたっての利用者ニーズの収集や利用者間の交流の促進を図っている。</p> <p>【工夫している点】新春のつどいやはちコミまつりでも、コミセンを利用している団体(21団体)の活動内容を展示する機会を設けており、相互の活動について理解を深めるよい機会になっている。活動展示などを通して利用団体間の相互理解を高めている。その上で、利用団体間が連携して新たな事業ができないか、各利用団体の</p>
--	---

	ニーズを聞き取りながら、共催事業につなげるような工夫を取り入れている。
地 域とコミセンのつながりづくり	<p>【現状】運営委員の人数が限られている中で、新規事業を行うと一人ひとりの負担が非常に大きくなっている。</p> <p>【工夫している点】はちコミまつり等を実施するにあたり、千川小学校の PTA や子ども会、青少協等と共催としている。できるだけ地域の団体と共催をしていくことで、様々な事業が実施できている。</p> <p>地域団体への会議の出席だけでなく、特に千川地域福祉の会・千川地域防災会・青少協千川地区・千川小 P T A や、千川おやじーズとは積極的に交流を持ち、相互協力できる体制がとれるよう工夫している。また、都立武蔵野北高校に関しては、学校運営協議会や防災委員会に委員として参加して関係を構築している。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

運 営委員・協力員の人材充実	<p>【現状】仕事や子育てをしながら協議会運営に関われる体制を整えている。</p> <p>【工夫している点】特定の時間帯であれば協力できるという意見を尊重し、運営委員会の開催時間の【要確認】調整を行った。</p> <p>【特筆すべき成果】新しく運営委員が加入し、そのつながりにより、また運営委員が加入するといった良い流れができた。</p>
持 続可能な事業の実施	<p>【現状】「歩こう会」「お出かけしよう」といったコミセン外での事業を企画し、特に親子、高齢者が気軽に地域や地域外に出向ける機会を創出している。</p> <p>【工夫している点】「歩こう会」は 20 年近く続いている事業であり、もともとは山登りなど自然をテーマにした企画が多かったが、最近では参加者のニーズを踏まえて、話題性が高く、人気のある施設もテーマに取り入れている。</p>
活 発な協議会運営	<p>【現状】多世代の運営委員が活動しているため、様々な考え方があるが、運営委員同士で話しあう機会を積極的に設け、ニーズの変化に対応した事業企画、施設運営を行っている。</p>

13. 関前コミュニティ協議会

(1) 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

【①特筆すべき点】

- 「ミュージックフェスティバル」では、地域住民への継続的な声掛けによって、参加者の輪を広げることに成功している。
- 地域団体をうまくコーディネートし、地域団体の特色を生かしたユニークな事業を実施している点を評価できる。（七夕まつり、花火大会など）
- また、求められる運営委員会への出席回数など、運営委員の要件を工夫している点も特徴的である。忙しい方やお子さんのいる方の参加を促す上で、柔軟なスタンスは有効であると考えられる。

【②今後期待すること】

- 地域団体の特色を生かした事業実施という現状はこのまま維持しつつも、今後は運営委員による独自のチャレンジ等も期待したい。
- 地域課題の解決や地域住民のニーズに対してコミセンからアプローチするなど、新たな展開についても期待をしたい。
- **引き続き様々な工夫により、運営委員の世代の広がりが進むことを期待したい。**

(2) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

利 利用者への配慮 と適切な対応	<p>【現状】新たに運営委員を中心に「ガーデニングチーム」を立ち上げ、花壇の整備や草花の植え付けを行い、利用者の憩いの場となるようにしている。</p> <p>【工夫している点】剪定箇所や水やり等、経験豊富な参加者によるワンポイントアドバイスを行っている。</p>
新 しい利用者・ 利用団体の増加	<p>【現状】日頃から音楽室を利用し楽器の練習等をしている人たちの発表の場として関前ミュージックフェスティバルを開催している。</p> <p>【工夫している点】以前はコミセンまつりの中で「カラオケ大会」を実施していたが、音楽室利用者のコーラス・ウクレレ・ピアノ・ギター等幅広いジャンルと幅広い年齢層の方が、参加できる催し物にした。</p>

	<p>【特筆すべき成果】地域で音楽を楽しまれる方たちにも毎年声かけをすることで参加者の輪が少しずつ広がり、多くの利用者と地域の方が交流する一日になってきている。</p>
<p>施設の利用方法の工夫</p>	<p>【現状】分館では、関前福祉の会主催の麻雀教室・囲碁教室、市の不老体操などが定期的で開催されている。</p> <p>【工夫している点】本館に調理室がないので、できるだけ火を使用しないでできるメニューを設定し、巻き寿司と簡単おつまみなど、湯沸室と電子レンジ等を利用して「男子の料理教室」を実施している。</p>
<p>情報の提供</p>	<p>【現状】ホームページを見やすくするためリニューアルを行った。</p> <p>【工夫している点】サイト全体のメニュー一覧を常に画面上位に表示させる、トピックスごとにエリア分けをするなど、必要な情報の取得が容易になるような構造とした。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

<p>利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり</p>	<p>【現状】「コミセンまつり」では、コミセン利用者が一堂に会し、交流する機会になっている。縁日や展示についても、運営委員・協力員や地域の多くの団体と協力しながら行っている。</p>
<p>地域とコミセンのつながりづくり</p>	<p>【現状】地域のお祭りである「関前八幡まつり」では、協議会に加えて、関前南小学校 PTA や青少協、福祉の会など計6団体が連携して花火大会を開催している。実行委員会形式で実施しており、これらの取組みを通して、団体間の顔の見える関係性の構築につながっている。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

<p>運営委員・協力員の人材充実</p>	<p>【現状】若い世代（50代以下）の運営委員の募集に力を入れている。</p> <p>【工夫している点】他のコミセンと比較して、運営委員になる要件を工夫している。すべての会議に出席することを運営委員の要件にしてしまうと若い世代の参加が難しいので、「運営委員会やコミセン行事に年2回以上出席すること」という要件にとどめている。</p>
<p>持続可能な事業の実施</p>	<p>【現状】コミセンまつりで小学生による吹奏楽演奏を行ったことで、PTAの方たちの協力も得られている。</p>
<p>活発な協議会</p>	<p>【現状】窓口担当者会議を定期的で開催し、窓口対応力の向上と情</p>

運営	報共有を行っている。
----	------------

14. 西部コミュニティ協議会

(1) 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

【①特筆すべき点】

- 体育室を持つ施設であり、利用者の利便性を高めるために利用条件の改善を検討したり、安全確保のため熱中症対策を行ったりするなど、利用上の工夫を講じている。
- 若い世代の担い手が増えてきており、SNS（ツイッター）を活用した情報発信を行っている。SNSを通じて、地域の団体・個人の間にも交流が生まれている。
- 事業実施のために、市のボランティア登録制度である「武蔵野市青少年リーダー」を活用し、中高生のボランティア協力を得ている点も特徴的である。

【②今後期待すること】

- コミセンが桜野地域防災ネットワークのメンバーになっているということだが、地域の防災拠点として、コミセンがどのような役割を果たしていくのかに今後注目したい。
- SNSのフォロワー獲得等によるさらなる情報発信力の強化に期待したい。
- 担い手の入れ替わり等によって、SNSの活用等、新しい発想による取組が生まれているが、現在過渡期とも見受けられる。今後もさらなる発展を期待したい。
- コミセン独自で運営委員研修会を開催したことはユニークであり、今後の運営委

(2) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

利 用者への配慮と適切な対応	<p>【現状】体育室をより利用しやすくするため、予約可能人数の変更を検討している。</p> <p>【工夫している点】予約可能人数の変更による有効性を検証するため、試験運用を行った（予約できる最少人数を4名から2名に変更したが、特段の効果・反響はなかったため元の4人に戻している）。</p>
新 しい利用者・利用団体の増加	<p>【現状】桜野小学校は900人を超える大規模校であるため、そうした地域の子どもたちが利用しやすい環境づくりが必要である点が課題として認識されている。</p>

施 設の利用方法 の工夫	【工夫している点】 体育室利用時の熱中症対策として、隣接する部屋を涼しくし、休憩場所として開放している。
情 報の提供	【現状】 協議会公式のアカウントを作成し、SNS と広報紙等、多様な方法で情報を発信している。 【工夫している点】 SNS を用いることで、即時性を持って地域情報を発信できている。 【特筆すべき成果】 SNS を通して、武蔵野市内で市民活動を行っている団体・個人とのつながりが生まれている。

② 地域におけるネットワーク機能

利 用者・利用団体 とコミセンとの つながりづくり	【現状】 コミセンまつり・文化祭は利用団体が一堂に会する機会であり、利用団体の交流が生まれ、顔の見える関係性の構築につながっている。 【工夫している点】 近年では文化祭に出展・出演するサークルの数が減少していたが、サークルの展示・発表の場だけではなく、はんこ作りや絵葉書作りといった参加・体験型イベントを企画するなどの工夫を行ったことで、地域住民の参加も増えている。
地 域とコミセン のつながりづくり	【現状】 地域防災については、桜野地域防災ネットワークがあり、コミセンもそのメンバーになっている。桜野小学校の避難所運営組織とも連携体制を構築している。 地域社協や青少協の運営委員にコミセンの委員が加わり、年数回の会議を通して情報交換を行っているほか、コミセンまつりの手伝い・出店等への協力を得ている。

③ 持続可能な協議会の運営

運 営委員・協力員 の人材充実	【現状】 運営委員を対象として研修会を開催した。 【工夫している点】 講師を招き「地域活動を活性化するための話し合いのコツを学ぶ」をテーマとした学びの場を設けた。
持 続可能な事業 の実施	【現状】 「ちびっこ運動会」という未就学児を対象とした運動会を開催している。 【工夫している点】 近隣の小学生や大学生等にも協力を呼びかけ、多くの方の協力を得ながら事業を実施している。また、中高生のボランティア協力を得るため、市のボランティア登録制度である「武

	蔵野市青少年リーダー」の活用を検討している。
活発な協議会 運営	<p>【現状】若い世代の運営委員が増加している。</p> <p>【工夫している点】若い世代の運営委員が増えたことで、働いている人や専業主婦などライフスタイルがそれぞれ大きく異なるメンバー構成になっている。そこで、協議会の定例会は、月ごとに午前の時間（子育て中の方も参加可能な時間）と夜間の時間（働いている人も参加可能な時間）を交互に開催するなどの工夫を行っている。</p>

15. 境南コミュニティ協議会

(1) 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

【①特筆すべき点】

- 地域に定着して事業展開しており、運営に安定感がある。地域の各種団体から運営委員を出してもらっていることによって、地域とのつながりの強化につながっている。
- 協議会の OB・OG の立ち上げた団体が盆踊り大会の実行委員を担っており、コミセンと地域団体との橋渡しの役割を担っている点も特徴的である。
- 運営委員が5つの部に分かれ、それぞれの部が主体的に企画や提案を行っているという点は特筆できる。

【②今後期待すること】

- 運営委員が5つの部に所属しながら、自らの関心に基づき提案を行っている点に可能性を感じる。運営委員の裁量や関心で、新たな取組が進展することを期待したい。
- 運営の安定性を維持しながらも、さらなる創意工夫の発現に期待したい。
- 施設の改修にともなって、事業活動のさらなる発展が期待される。
- 設備改修工事に伴う内装等のリニューアルが予定されており、地域の方にとってより一層開かれた利用しやすいコミセンになることを期待したい。

(2) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

<p>利用者への配慮と適切な対応</p>	<p>【現状】体育室は多くの利用があり、卓球やバドミントン等、様々な活動が行われている。</p> <p>【工夫している点】体育室の混雑時には、4時間の枠のうち2時間を目安にした利用をお願いし、多くの利用者が使えるようにしている。</p>
-----------------------------	--

<p>新しい利用者・利用団体の増加</p>	<p>【現状】「モーニングハイク」事業では、より多くの人に関心を持ってもらえるような場所を検討し、選出している。ただ行くだけではなく、その場所で子どもが遊べるかといった点にも留意し、新たな人の参加を企図している。</p> <p>【工夫している点】体育室があることから、「スポーツ委員会」を設け、地域のスポーツ関連団体から1名ずつ出してもらっている。各団体が企画・運営側に回り、一般利用者を対象としたスポーツデーを開催した。</p>
<p>施設の利用方法の工夫</p>	<p>【現状】体育室は、夏場は気温が上昇するため、特に高齢者などは熱中症に気を付ける必要があり、15分ごとに気温を測定し記録するとともに適宜注意喚起を行っている。<u>大型館であり、教室形式で利用できる会議室など、様々な形式での利用が可能である。現在、空調・給排水管工事に伴い内容工事も行われており、一層使いやすいレイアウトへの変更に取り組んでいる。</u></p> <p>【工夫している点】ロビーは子どもの利用が多いため、遊びやすいようにテーブルを設置している。</p>
<p>情報の提供</p>	<p>【現状】ホームページに施設予約状況を公開している。</p> <p>【工夫している点】ホームページに地域の風景やイベントの様子等を撮影した写真を多く掲載し、効果的に地域の紹介をしている。また、周年記念誌をホームページで公開し、協議会活動や歴史を広く情報提供している。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

<p>利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり</p>	<p>【現状】「モーニングハイク」事業は、地元について新たな発見があると好評で、小さな班で出かけるため、全く知らない人同士の交流が生まれる点が特徴である。また、「ママのための健康講座と親子de体操（6カ月から1歳未満の子どもを対象）」や「くまのひろば（0から3歳未満の子どもを対象、絵本の読み聞かせ等）」など、乳幼児向けの事業を多く実施している。</p> <p>【工夫している点】子どもの成長に応じた事業を実施していることで、継続的に関わりを持っている。</p>
<p>地域とコミセンのつながりづくり</p>	<p>【現状】地域の各種団体から、コミセンの運営委員を選出しており、運営委員会そのものが地域団体のつながりを生む場所になっている。また、コミセン独自で自主防災担当を決め、境南地域防災会の一員として3～4人が会議・訓練に参加している。境南地域社協と</p>

	<p>武蔵野赤十字在宅介護・地域包括支援センターと連携して、認知症の支え合い、一人住まいの方々の見守りにも参加している。</p> <p>【工夫している点】協議会の OB・OG が立ち上げた境南盆踊り実行委員会に協議会が入り、境南盆踊り大会を開催している。実行委員会の呼びかけによって、企業や老人会等、多くの地域団体が関わっている。</p>
--	---

③ 持続可能な協議会の運営

<p>運営委員・協力員の 人材充実</p>	<p>【現状】運営委員は、地域の各種団体から選出してもらう形で確保している。担い手の高齢化は課題ではあるが、スポット的に PTA や地域社協の協力が得られている。</p>
<p>持続可能な事業 の実施</p>	<p>【現状】「モーニングハイク」事業は、毎年新役員が担当となっており、事業の次世代への引継ぎや新役員の地域へのお披露目が企図されている。また、運営委員は、「広報部」「青少年部」「成人活動部」「地域対策部」といった4つの部のどれかに所属することになっており、それぞれに役割・裁量を与えている。どの部に所属するかは、希望も踏まえるが、最終的な調整は役員が行っている。</p> <p>【工夫している点】5つの部には部長がおり、彼らの主体的な行動が増えている。事業の企画などを各部に任せることで、毎月の運営委員会での提案・報告が活発に行われている。</p>
<p>活発な協議会 運営</p>	<p>【現状】（平成 30（2019）年に）協議会会則を見直し、実現はしなかったが改定案を住民総会に提出する等、より良い協議会運営ができるよう工夫を続けている。</p>

16. 桜堤コミュニティ協議会

(1) 総括及び今後期待すること (評価委員会よりコメント)

【①特筆すべき点】

- 小規模でアットホームな施設である。立地的・施設規模的な制約はありつつも、隣接する上水北公園をうまく活用している点に特色がある。
- 地域団体とのつながりも強く、地域の人材の活用も活発である。小さなコミセンが故の運営リソースの制約が、結果的に地域団体へのアプローチ・連携強化につながっている。

【②今後期待すること】

- 隣接する公園の活用や地域団体との濃い連携など、桜堤コミセンらしい事業を維持しつつ、新たな展開に期待したい。
- 運営委員の高齢化といった課題の中で、担い手の確保や持続的な協議会運営の面では試行錯誤をしている状況だと見受けられる。新しい担い手の協力をどのように得ていくか等を含め、今後の新たな工夫や取組に着目したい。
- エレベーター設置をはじめ、内装がリニューアルされたことにより、新しい地域コミュニティづくりが展開されることに期待したい。

(2) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

利用者への配慮と適切な対応	【現状】卓球セットやオセロ、トランプ等の貸し出しを行い、気軽にコミセンに来て楽しめるようにしている。
新しい利用者・利用団体の増加	【現状】子どもと大人の輪投げ大会・ボッチャ大会を実施している。 【工夫している点】子どもから高齢者までが一緒のチームをすることで、世代間交流が生まれている。
施設の利用方法の工夫	【現状】多くの人が一堂に集まれる部屋がない。 【工夫している点】隣接する上水北公園も活用することで、「夏まつり」や「天体観望会」など多くの方が集まる事業の実施ができています。

情報の提供	【現状】イベント情報やお知らせ等を掲載している会報を3カ月に1度発行している。
-------	---

② 地域におけるネットワーク機能

利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり	<p>【現状】利用者懇談会を年1回開催し、利用団体同士の交流、また利用団体と地域のつながりの創出に取り組んでいる。</p> <p>【工夫している点】未就学児の親子を対象としている桜堤児童館との連携事業「親子広場（子育てについての情報交換等）」の参加者に、「よみきかせ」への参加も呼びかけるなど、継続的なつながりづくりが意識されている。「よみきかせ」の終了後も幼児室（令和2年度からロビーに変更）にて、参加者同士の交流が促進されている。</p>
地域とコミセンのつながりづくり	<p>【現状】子どもと大人の輪投げ大会、ポッチャ大会、利用者懇談会、お餅つき、夏祭りなど、地域団体と連携して事業を実施している。例えば子どもと大人の輪投げ大会は、地域の高齢者団体との共催で実施しており、地域の桜堤ケアハウスからの参加もある。また、桜堤ケアハウス地域包括支援センターと共催で介護予防の講習会を実施している。小さなコミセンだからこそ、地域団体の力を借りなければ事業実施が難しい点が、結果としてつながりを生んでいる。</p> <p>【工夫している点】ポッチャ大会の練習場所として地域の学校の体育館を借りることがあるほか、協議会から桜野小学校の地域子ども館推進会議に委員を出すなど、学校とのつながりづくりに取り組んでいる。また、地域団体とは、各団体の代表者と密に連絡を取っているほか、事業実施に向けては各団体に協力依頼をして準備会にも出席してもらい、団体同士のつながりをつくっている。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

<p>運営委員・協力員の 人材充実</p>	<p>【現状】運営委員の入れ替わりはあまり多くなく、高齢化も進んでいるため若い世代の参加を得ることが課題となっている。そのような状況の中でも、令和元（2019）年度は3名の新しい運営委員が参加している。若い人や新しい運営委員の参加で新しい事業や意見が生まれるようになり、変化が表れている。市境という立地条件のため、他市の利用者から運営委員として活動している方もいる。</p>
<p>持続可能な事業 の実施</p>	<p>【現状】「天体観望会」という事業は講師の都合により継続が困難になったが、利用者からの継続を望む声が多く寄せられていた。 【工夫している点】「天体観望会」を継続するため、野外活動センターへ相談し、新たな講師の紹介を受けて、現在も事業を実施できている。</p>
<p>活発な協議会 運営</p>	<p>【現状】協議会主催のサークルを3つもっている。 【工夫している点】サークルは囲碁同好会（桜碁会）、カラオケ同好会、絵手紙（みどりの会）があり、定期的に活動している。</p>

17. 全コミュニティ協議会に共通する項目について

(1) 適正な運営

各コミュニティ協議会において、適正な運営が行われているかを評価する項目として下記4点を設定し、コミュニティ協議会に対するヒアリング調査を実施した。ヒアリング調査の結果、いずれのコミュニティ協議会においても、それぞれの評価項目について概ね適正な運営が行われていると確認できた。

図表 7 「適正な運営」評価項目

適正な運営	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 会則や利用の決まりに沿った公平な運営 ✓ 個人情報の保護 ✓ 事業計画に沿った運営 ✓ 経費削減と予算の適正な執行
-------	--

「会則や利用の決まりに沿った公平な運営」では、役員会や運営委員会で確認や見直しが行われているほか、利用者への会則の周知・利用者からの意見聴取などを行う例も見られた。「個人情報の保護」では、利用申込書や受付簿の施錠管理の元の保管、一定期間経過後の確実な破棄が行われている。なお、令和2（2020）年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、感染防止対策の一環として利用者の連絡先等の把握も必要となったが、市の方針やコミュニティ研究連絡会における検討を踏まえてチェックシートを準備するなど、各協議会において工夫ある取組みが行われた。

「事業計画に沿った運営」では、事前に話し合いに基づいて年間の事業計画が作られているだけでなく、事業終了後には、運営委員会での報告等を通じた振り返りも重視され、次年度以降のより良い事業実施に向けた取組みが進められている。

「経費削減と予算の適正な執行」では、年間の事業計画と予算書に基づき、役員会・運営委員会等における確認・話し合いを経て支出が行われ、監査や住民総会等を通じて使途が公表されており、適正な予算執行が心がけられている。

(2) 施設・設備の管理

各コミュニティ協議会における施設・設備の管理について、下記4点の評価項目を設定し、コミュニティ協議会に対するヒアリング調査を実施した。ヒアリング調査の結果、いずれのコミュニティ協議会においても、それぞれの評価項目について概ね適正な運営が行われていると確認できた。

図表 8 「施設・設備の管理」評価項目

施設・設備の管理	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 異常時の市への連絡・報告 ✓ 防災・防犯 ✓ 防火の管理 ✓ 備品の管理
----------	---

「異常時の市への連絡・報告」では、窓口担当者が迅速に市役所や関係業者に連絡が取れるよう、必要な情報の整理・共有が徹底されている。

「防災・防犯」では、避難訓練の実施・参加、戸締りの強化、担当者や担当部会の設定、地域団体との情報共有等、各協議会で複数の取組みが進められている。

「防火の管理」では、選任した防火管理者を中心にチェック体制を整えており、調理室のあるコミュニティセンターにおいて、特に管理が強化されている。毎日の点検のほか、利用団体等にも利用後のチェックを依頼している場合が多い。

「備品の管理」では、備品台帳の作成・更新、備品シールの貼付による管理など、適正な点検と管理が心がけられている。

第4章 総評

本章では、各コミュニティ協議会の共通課題として、「協議会運営全般」「施設設備等のハード面」「地域フォーラム・コミュニティ未来塾むさしの」について、現状に対する評価と今後の方向性について記載する。

「協議会運営全般」について、評価委員会では、各種調査結果や意見交換会、視察等を通して、共通の論点として「(1)情報の発信」「(2)人材の確保・育成」「(3)諸団体との連携」「(4)気軽に立ち寄れるコミュニティセンターづくり」の4つを設定した。以下では、これら4つの論点ごとに現状に対する評価と今後の方向性について記載する。

また、「施設・設備等のハード面」については、平成29(2017)年2月に策定された「公共施設等総合管理計画」を受けて、コミュニティセンターが将来にわたって安全性を維持しながら、地域のニーズに合った施設として親しまれ続けるために、施設・設備等の整備や維持管理に求められる考え方を総評として記載する。

最後に、平成26(2014)年11月の「武蔵野市これからの地域コミュニティ検討委員会」にて提言されて以降、各コミュニティ協議会にて創意工夫を重ねながら実施してきた「地域フォーラム」及び「コミュニティ未来塾むさしの」について、過去5年間の取組みについて概観するとともに、今後の事業のあり方について検討する。

1. 協議会運営全般について

(1) 情報の発信

① 現状に対する評価について

コミセンの利用や地域への参加をより多くの市民に促していくために、情報発信の重要性がこれまで以上に高まっている。また市民にもっとも身近な公共施設を運営し、行政と地域の双方から情報を得ている立場を生かして、コミュニティ協議会には市民生活に関わるさまざまな情報を市民の目線で伝えていく役割も期待されている。そうした状況の中で、各コミュニティ協議会では、コミセン便りの発行やホームページの運営に積極的に取り組んできた。

例えば、コミセン便りについては、いずれのコミュニティ協議会においても、定期的に各種イベントや利用団体の活動状況等に関する広報誌として発行している。そのなかには、コミセンに関する情報だけではなく、地域の様々な情報なども含めてコミュニティ全体の情報誌としての役割を果たすようなものもある。また、多くのコミセンではコミセン便りを地域内の全戸に配布したり、一部のコミセンでは「マチコミ」¹に情報を配信したりするなど、

¹ 一部の市内小学校・中学校にて導入されているメール連絡網サービス（運営主体：ドリームエリア株式会社）<https://www.dreamarea.com/>

情報発信を通して、地域とのつながりの創出・拡大につなげている例がみられる。

また、すべてのコミュニティ協議会で専用のホームページを設けている。さらには、コミセン内外に設けた掲示板の活用、地域フォーラムや他団体との連携を通じた情報伝達、各種事業を通じた啓発など、コミセン便り以外でも多様な情報発信の手段を活用してきている。

さらに、近年では、SNS(Twitter 等)を活用した情報発信を行っているコミセンもあり、より幅広い市民に対して積極的に情報発信を行っている例がみられる。特に、こうした SNS 等の新たな情報発信の手段は、若年層に訴えかける効果があるといえる。

一方、課題としては、コミセン便りの作成・配布やホームページの運用・管理について、対応可能な運営委員・協力員の人手が足りていない点や、一部の運営委員・協力員に負担が集中している点が挙げられる。また、SNS をはじめ新たな媒体で情報発信を行う上でのノウハウを、いかにしてコミセン間で共有・蓄積していくかも課題になっている。

図表 9 「情報発信」に関する取組み例①

コミセン便りの掲載内容の充実（吉祥寺東コミュニティ協議会）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に関心を持ってもらうために、コミセンの行事に関する情報だけではなく、地域・まちの情報やニュース、吉祥寺東町在住の方や、ゆかりのある方を「九浦の家だより」で紹介している。 ・ コミセンの情報について、地域の掲示板への掲載に加えて、地域内の約 6,900 戸への全戸配布を行っている。 	

図表 10 「情報発信」に関する取組み例②

「マチコミ」の利用による情報の発信（八幡町コミュニティ協議会）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 千川小学校保護者が登録している「マチコミ」のメール配信を利用して情報発信を行っている。 ・ マチコミ利用で保護者に直接情報が届き、今まで利用したことのない層の方が事業に参加するなど、コミセン運営に興味を持ち運営委員の加入につながった。 	

図表 11 「情報発信」に関する取組み例③

SNS (Twitter) の活用による情報の発信 (けやきコミュニティ協議会、八幡町コミュニティ協議会、西部コミュニティ協議会)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会公式の Twitter アカウントを作成し、SNS と広報紙等、多様な方法で情報を発信している。SNS を用いることで、即時性を持って地域情報を発信できている。 ・ SNS を通して、武蔵野市内で市民活動を行っている団体・個人とつながりが生まれている。 	

② 今後に向けて

コミセン便りの発行・配布やホームページの運営といったこれまでの情報発信の取組みは、単にコミセンの利用方法を案内するだけでなく、コミュニティ協議会の活動を地域に広く知らせる契機になる。特にコミセン便りに関しては、地域の様々な情報や人物・団体を紹介するなど、地域とのつながりの創出・拡大につながっている。また、ホームページは、誰もが場所や時間にとらわれずに情報を得られる手段として欠かせなくなっており、各協議会でもその重要性を認識し、より充実した内容にすべく更新に取り組まれている。今後も、こうした情報発信をコミュニティ協議会の重要な機能の一つとして位置付け、継続的に実施していくことが期待される。

一方で、コミセン便りの制作・発行に関して、一部の運営委員・協力員に負担が集中してしまうといった課題が指摘されている。それぞれの人員体制の状況に応じた形で、持続的なコミセン便りの発行方法を模索する必要がある。ホームページについても同様の課題を抱えており、定期的な更新を担える人材の不足に苦慮している協議会が多い。コミュニティ研究連絡会や行政によるサポート方法を検討すべきであろう。

また、これらの取組みに加えて、一般に広まってきている SNS の活用についても検討してみる価値がある。SNS は、若年層の利用者が多いため、これまで関わりの少なかった年代に情報を伝える効果が期待でき、また今後、新型コロナウイルス感染症の影響によって対面でのコミュニティ活動が難しくなった場合の代替手段にもなり得る可能性がある。すでに取組みを始めている協議会から効果や課題などの経験を聞き、ノウハウを共有するなど、コミュニティ研究連絡会や協議会同士でサポートできる仕組みができていくとよい。

これまで各コミュニティ協議会が試行錯誤を重ねて取り組んできた情報発信について、今後、他の協議会の好事例を互いに学び合い、協力し合いながら、より発展・充実させていくことが求められる。

(2) 人材の確保・育成

① 現状に対する評価について

1) 人材の確保について

多くのコミュニティ協議会において、運営委員の高齢化や、人員不足が課題に挙げられている。担い手の確保に向けては、コミセン便り等で広く人員を募るほか、個人的なつながりのある人に声掛けをすることといった募集方法が中心となっている。一方で、コミュニティ協議会との意見交換会等においても、人材の量的な不足や固定化、年齢層の偏り（若年層の不在）など、人材の確保が大きな課題として挙げられている。

ただし、このような状況の中でも、利用団体・地域諸団体と連携したりすることで効率的に事業を行い、運営委員の負担軽減に取り組んでいる例が複数みられる。こうした利用団体・地域諸団体を協議会運営に巻き込む工夫としては、事業をきっかけにコミセンに来てくれた人と交流する場を設ける（各種主催事業・利用者懇談会等）、地域諸団体からコミセンの運営委員を選出してもらうといった取組みがみられる。

また、運営委員として参画するハードルを下げる工夫としては、「単発的な活動を行う協力員としてスタートしてもらう」、「運営委員の要件（会議や事業への出席回数）を緩和する」等の取組みがみられる。

2) 人材の育成について

高齢化や人員不足と関連して、既存のメンバーや新たな参画メンバーが、やりがいを持って活動し活躍できるような環境づくりや、スキルアップも重要な課題となっている。

運営委員が活躍しやすい環境づくりの工夫としては、「多様なライフスタイルのメンバーができるだけ参加できるよう、定例会を午前中と夜間の時間で交互に開催する」、「自己点検・評価表は運営委員の総意によって作成する」、「協議会会則の見直しのためにアンケートを実施した」など、負担ややりがいが一部の運営委員のみに偏らないようにする取組みがみられる。また、運営委員らの意欲・やりがいを高める工夫としては、「各事業で実行委員会を立ち上げ、事業実施に向けてチームを組む」「運営委員全員がテーマ別組織（部）のいずれかに所属し、それぞれに役割と裁量を与えている」など、活躍の場を設けることで、運営委員としてのやりがいの醸成や、関心の拡大につながるような取組みがみられる。また、運営委員や協力員が、自由にやりたいことを提案できる仕組みを設けているところもある。このような主体性を引き出す仕組みが、担い手のやりがいを引き出し、新しい事業にもつながっている。

一方で、運営委員・協力員が普段の活動の振り返りを行うとともに、新たな事業を企画・実施してみたいと思ったときに必要なスキルや知識などを学ぶ機会が限定的であるとの意見も出されている。運営委員・協力員が高い意欲を持って活躍していくためにも、運営委員・協力員の「学ぶ機会」をより一層拡充していくことが求められている。

図表 12 「人材の確保・育成」に関する取組み例①

「助っ人バンク」（吉祥寺南町コミュニティ協議会）	
<ul style="list-style-type: none"> 令和元（2019）年度より、「助っ人バンク」といって、スポット的に協力してくれる人員を広く市民から募っている。令和元（2019）年夏時点で4名の応募が得られている。 個人的な人脈に頼らない人員確保の取組みの一つである。 	写真

図表 13 「人材の確保・育成」に関する取組み例②

「大学生等との連携」（西部コミュニティ協議会）	
<ul style="list-style-type: none"> 近隣の小学生や大学生等にも協力を呼び掛け、多くの若者の協力を得ながら事業を実施している。また、中高生のボランティア協力を得るため、市のボランティア登録制度である「武蔵野市青少年リーダー」の活用を検討している。 若い世代にコミュニティセンターの活動を知ってもらう機会になっており、次世代の担い手育成にもつながりうる取組みである。 	写真

図表 14 「人材の確保・育成」に関する取組み例③

「まちづくり局」（けやきコミュニティ協議会）	
<ul style="list-style-type: none"> 「まちづくり局」というチームを設け、個々のチームが様々なアイデアを出し合ってそれぞれプロジェクトを立ち上げている。 新たに地域活動を行いたいと考える人が自由に企画提案できる場になっており、運営委員としてのやりがいの実感につながっている。 	写真

② 今後に向けて

1) 人材の確保について

コミュニティ協議会の根幹は運営委員・協力員であり、その人材確保は重要な課題である。上述の通り、運営委員・協力員の人的不足や固定化、年齢層の偏り等はいずれのコミュニティ協議会でも、程度の差こそあれ、共通の課題となっている。これらの課題に対しては、より参画しやすい環境づくりのほか、特定の層に注力した人材の発掘・勧誘も求められている。

第一に、参画しやすい環境づくりについてである。運営委員・協力員にも様々なライフスタイルがあるため、運営委員・協力員の要件のなかで大きなハードルになっている事項は緩和するなどの見直しが重要だといえる。継続的に運営に参画できなくても、例えばホームページ作りの得意な人材がいたときに、そのスキルや強みを生かした役割に特化した参加を受け入れる体制があつてよい。その場合、協議会が求めているスキルをあらかじめ明示しておくとうまいだろう。また、そうした特技がない人であっても、仕事・学業・子育て・介護や健康状態などにより、参加できる時間や場所などの制約がある市民を念頭に、可能な範囲での参加を歓迎し、またオンラインでの会議参加も検討するなど、多様な参加方法を用意し、

より幅広い住民が運営に関われる形を整えることも大切である。

ただし、そうした工夫を進めたとしても、その内容が地域住民に伝わっていかねば効果につながらない。コミュニティ協議会への参加方法や、協議会の日頃の運営状況、組織体制などについて、誰もが気軽に情報を得られるような用意が必要である。協議会の委員になると何ができるのか、協議会がどのように運営され、何を目指しているのか。会則だけでなく、たとえば現在の委員の感想なども含めて、コミセンだよりやホームページなどで積極的に分かりやすく情報を伝え、透明性を高め、親近感を持ってもらう取組みが大切である。

そして、新たな参加者を迎え入れるにあたっては、旧来と異なる意見や新しい発想も尊重し、分け隔てなく接する柔軟な心構えと雰囲気づくりが欠かせないだろう。

第二に、特定の層に注力した人材の発掘・勧誘についてである。日ごろコミセンを利用している団体は、コミュニティ協議会への理解も深く、関心も高い層だといえる。一部のコミュニティ協議会では、こうした利用団体との懇親の機会を設けるなどコミュニケーションを図り、運営側に勧誘していく取組みも行われている。また、中高生ボランティアや大学のボランティアサークル等と連携するなど、若年層の巻き込みについて様々な工夫をしているコミュニティ協議会もある。こうした各協議会の独自の工夫が、相互の学び合いを通じて広がっていくことが期待される。

2) 人材の育成について

人材育成に関して、運営委員・協力員の学びの機会を提供することは、各運営委員・協力員のモチベーションを向上させるとともに、新たな事業企画・展開を行う上でも重要である。もっとも、施設の運営から協議会の組織運営、各種事業の企画・実施、さまざまな協議・調整など、日常のコミュニティ協議会の活動のすべてが、経験的な学びと人材育成の機会であって、それこそがコミセンが市民運営であることの趣旨であると言える。

現在、各コミュニティ協議会では、マニュアルなどを用いた研修やさまざまな役割分担などを通じて人材育成を行っており、またコミュニティ研究連絡会においても、講師による講義や、運営委員同士の話し合いなどの形式で、窓口研修や運営委員研修などの各種研修を実施している。

こうした学びの機会をより充実させていくためには、各コミュニティ協議会と市がコミュニティ研究連絡会などを通じて協議を重ね、運営委員・協力員に求められるスキル・知識はどのようなものか整理し、共有したうえで、学びのプログラムを準備していくことが期待される。

また、各人のモチベーションを高めるためには、運営委員・協力員自らが主体的に提案したり、活動したりできる場を設けることも重要である。運営委員・協力員からの新しい提案を積極的に受け入れ、既存の事業の更新や新規事業の立ち上げにつなげていくことが期待される。

(3) 諸団体との連携**① 現状に対する評価について**

コミュニティ協議会の重要な役割として、地域の諸団体やコミセンの利用団体とつながりながら、地域コミュニティを発展させていくことが挙げられる。これまでも、各コミュニティ協議会の努力によって、諸団体とネットワークを形成し、活動を発展させてきた経緯がある。

第一に、コミセンの利用者（利用団体）との連携である。多くのコミュニティ協議会において、利用者懇談会等を開催し、利用者からの意見を聴取して、コミセンの運営に活かしている。また、単にコミュニティ協議会と利用者との関係だけではなく、利用者同士の横のネットワークの拡大を支援している例もみられる。具体的には、コミセン祭りや音楽祭などのイベント時には、普段交流のない利用者、地域住民、地域諸団体の相互の交流機会をつくることによって、地域のつながりを深化・拡大している。そのほか、コミセンが仲介役となって、コミセン利用者と諸団体とのつながりづくりを行うような例もある。こうしたコーディネート機能が今後も引き続き果たされていくことが期待される。

第二に、地域の諸団体との連携である。地域の諸団体との連携によって各種の事業を充実・発展させてきた点を評価することができる。例えば、各コミセン恒例の文化祭などの大きなイベントの運営は、諸団体との連携によって継続して実施ができていているといえる。また、地域によっては、地域の諸団体のメンバーにコミュニティ協議会の運営委員が入ることによるネットワークづくりと情報共有も行われている。これは地域フォーラムなどとともに、地域課題を把握し、連携した取組みを進めるための土台となっている。

このような利用団体や地域団体との連携は、運営委員・協力員を勧誘し、新しい担い手の確保につながる好機にもなっている。

一方で、上記のような諸団体との連携には、調整する事項も多く、時間と労力を要するため、継続的に実施していくにあたっての負担軽減が課題となっている。

図表 15 「諸団体との連携」に関する取組み例①

ロビーにおける展示の活用（中央コミュニティ協議会、本宿コミュニティ協議会、他）	
<ul style="list-style-type: none"> 中央コミセンのロビーは、ミニギャラリーとして利用団体が展示に活用できるようになっている。3大イベントの一つ「文化祭」においても、地域の小中学校の児童・生徒及びデイケアセンター、利用団体の作品発表の場となっている。 利用団体だけではなく、イベント時には地域諸団体の作品展示もできるなど、多様な人々の存在を感じられるロビーとなっている。 	

図表 16 「諸団体との連携」に関する取組み例②

井ノ頭通り美化活動（吉祥寺西コミュニティ協議会）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域懇談会での意見がきっかけとなり、「井ノ頭通り美化活動」がスタートした。 ・ 事業の企画及び実施の両面において、地域の人々ともに行う事業である。 	写真

図表 17 「諸団体との連携」に関する取組み例③

まちをきれいに（本町コミュニティセンター協議会）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 東日本大震災で地域のきずなの重要性を認識したことがきっかけとなり、毎月1回、地域の団体とともに、絆づくりの一環として吉祥寺駅東側からコミセン周辺までの清掃美化活動を行っている。 	写真

図表 178 「諸団体との連携」に関する取組み例④

関前八幡まつり（関前コミュニティ協議会）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のお祭りである「関前八幡まつり」では、協議会に加えて、関前南小学校 PTA や青少協、福祉の会など計6団体が連携して花火大会を開催している。 ・ 実行委員会形式で実施しており、これらの取組みを通して、団体間の顔の見える関係性の構築につながっている。 	写真

図表 19 「諸団体との連携」に関する取組み例⑤

緑懇話会（緑町コミュニティ協議会）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティ協議会も参加して、町会や商店街など10団体程度の地域団体が集まって、地域課題について話し合う「緑懇話会」を実施している。 ・ 過去には、地域の交通アクセスについて緑懇話会で話し合い、市とバス会社に要望し協議を進めることで、緑町2丁目のURと都営住宅間の道路整備と新たなバスのルートの開通（平成24年）につながった。 	写真

図表 20 「諸団体との連携」に関する取組み例⑥

多摩湖ナイトハイク（西久保コミュニティ協議会）	
-------------------------	--

<ul style="list-style-type: none"> 西久保コミュニティ協議会の主要事業である「多摩湖ナイトハイク」など大規模事業は、運営委員の高齢化も進む中で、継続的な実施が体力的に難しくなっている。 関前コミセン、青少協第5地区・関前南地区、五中PTAの5団体で共催事業として実施してきたが、現在では、垂細垂大学の学生にもボランティアとして参加してもらい、地域の諸団体との連携を通して継続的に事業を実施している。 	
--	--

図表 2118 「諸団体との連携」に関する取組み例⑦

防災訓練（御殿山コミュニティ協議会、他）	
<ul style="list-style-type: none"> 町内会や福祉の会、老人会を始めとする地域の団体と連携し、館内での防災訓練を毎年実施している。 	

図表 22 「諸団体との連携」に関する取組み例⑧

スポーツデー（境南コミュニティ協議会）	
<ul style="list-style-type: none"> 普段から体育室を利用しているスポーツ団体から委員が選出された「スポーツ委員会」による企画・運営で、年4回、卓球やバドミントンなどのスポーツを楽しむイベントを開催している。 	

② 今後に向けて

上述の通り、コミュニティ協議会はこれまでも地域の諸団体とのネットワークを拡大してきたほか、地域の諸団体同士のつながりも創出するなど、地域における人材の充実に貢献してきた。今後も、防犯・防災や地域福祉、子育て、教育、環境など様々な団体同士のつながりが強化されることで、コミュニティが深化・拡大していくことが期待される。

一方で、前述の通り、連携やネットワークづくりは時間・労力を要するため、負担感が生じているという課題もある。各コミュニティ協議会における地域の諸団体との連携方策の好事例を学び合いながら、効果的な連携による負担軽減のあり方についても検討していく必要がある。

また、地域フォーラムについては、地域の多様な主体が集まり、対話を通して地域課題の解決に向けた連携を発展させていくという意義を再認識し、各コミュニティ協議会においても引き続き実施していくことが期待される。並行して、地域フォーラムの開催にあたっての行政側の関与のあり方についても検討することが求められる。

(4) 気軽に立ち寄れるコミュニティセンターづくり**① 現状に対する評価**

コミュニティセンターは、地域に開かれた施設運営を理念としており、誰もが気軽に立ち寄れる施設運営が求められている。こうした中で、各コミュニティ協議会では、窓口対応の質向上を目的とした研修や、ロビーがより親しみの持てる空間になるような机・椅子の配置、掲示物による案内などの創意工夫を行っている。こうした細かな気配りに基づく様々な創意工夫によって、日々改善を行っている。

一方で、利用者アンケートや無作為抽出アンケート調査の結果からは、コミュニティセンターは立ち寄りにくい雰囲気があるといった声も聞かれる。また、予約や施設利用に関するルールが煩雑さが指摘されているとともに、市外利用者・地域外利用者の利用可否をはじめ利用ルールに関してコミュニティセンターごとに異なる点も利用のしにくさの一因として指摘されている。

加えて、現状では、新型コロナウイルス感染症防止対策として、利用にあたっての様々な制約があり、気軽に立ち寄れるコミュニティセンターづくりは様々な課題に直面しているといえる。

図表 23 「気軽に立ち寄れるコミュニティセンターづくり」に関する取組み例①

予約ルールの柔軟な運用（八幡町コミュニティ協議会、他）	
<ul style="list-style-type: none"> 多くの方に利用してもらうため、当日その時間帯に部屋が空いていれば、1名からでも申し込みを受け付けて2時間まで利用ができるようにしている。 また、ホームページで予約状況が確認できるようになっている。 	

図表 24 「気軽に立ち寄れるコミュニティセンターづくり」に関する取組み例②

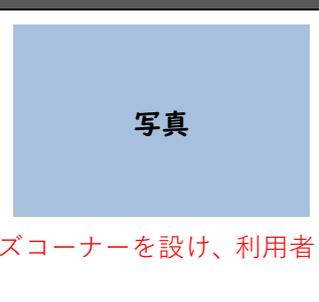
「パパひろば」（吉祥寺南町コミュニティ協議会）	
<ul style="list-style-type: none"> 若いお父さんでも気軽にコミュニティセンターの運営に携わるきっかけづくりの工夫として、「パパひろば」を開催し、子どもを仲立ちに地域参加してもらう仕組みを作っている。 また、お父さんたちが気後れしないよう、「パパひろば」のスタッフは男性が担っている。 	

図表 25 「気軽に立ち寄れるコミュニティセンターづくり」に関する取組み例③

利用者ニーズを踏まえた施設（和室）の柔軟な利用（本町コミュニティセンター協議会、他）

<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者ニーズの変化を考慮し幅広い層の利用に対応できるよう、和室にも和室用可動式のテーブルと背もたれ椅子を置くなどして利用者の利便性向上を図っている。 	
--	---

図表 19 「気軽に立ち寄れるコミュニティセンターづくり」に関する取組み例④

ロビーのリニューアル（吉祥寺北コミュニティ協議会・桜堤コミュニティ虚偽会）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 予約不要で未就学児がいつでも楽しめるよう子ども用マットを張り、広々とした「親子ふれあいコーナー」を新設した。 ・ 机の配置を変え、ソファを設置し「ゆったりとくつろげる場所」を創出した。 ・ 幅広い層の利用に対応できるよう、丸テーブルと椅子を置くほか、乳幼児を遊ばせられるようおもちゃや可動式のキッズコーナーを設け、利用者の利便性向上を図っている。 	

② 今後に向けて

上述の利用ルールの煩雑さやコミュニティ協議会ごとのルールの差異については、コミュニティセンターの適切な運営に当たって必要なルールとして、これまでの経緯から設定されたものであるだろう。また、単なる利用のしやすさの追求ではなく、それぞれの地域の実情にあった形で運営委員・協力員、利用団体、地域住民が議論をしながら、積み上げてきたことが現行の利用ルールになっている。一方で、利用ルールの差異等を理由に「利用しにくい」と考える潜在的な利用者層も一定数いることから、利用ルールについてはコミュニティ協議会同士で相互に参照し合いながら継続的に点検を行い、統一できる利用ルールと、それぞれの実情に応じた形で設定すべき利用ルールを整理・検討することが必要である。それらを通して、今後より一層利用しやすい環境を整えていくことが期待される。

また、気軽に立ち寄れるコミュニティセンターづくりに関しては、それぞれのコミュニティ協議会が様々な工夫を行っている。そうした各コミュニティ協議会の創意工夫をお互いに共有し、学び合うことによって、単なるコミセンの平準化ではなく、協議会全体としての底上げが可能になる。各コミュニティ協議会の運営委員・協力員が相互に訪問・交流しあうことで、お互いの良さを学び合う機会を創出することが期待される。

さらに、利用したいと思われるコミュニティセンターにしていくためには、日々変化していくコミュニティセンター周辺の地域の状況（人口動態等）を踏まえた事業企画や施設運営を行っていくことも重要である。例えば、若年層が多く転入しているエリアであれば、そうしたデータに基づき、想定されるニーズに即した事業を実施していくなどの工夫が期待される。また、こうしたデータに基づく事業企画や施設運営にあたっては、それらをサポートする行政の支援体制（例えば、データ利活用に関する研修機会や問合せ対応など）も併せて検討することが求められる。

2. 施設設備等のハード面について

(1) これまでの経緯と現状について

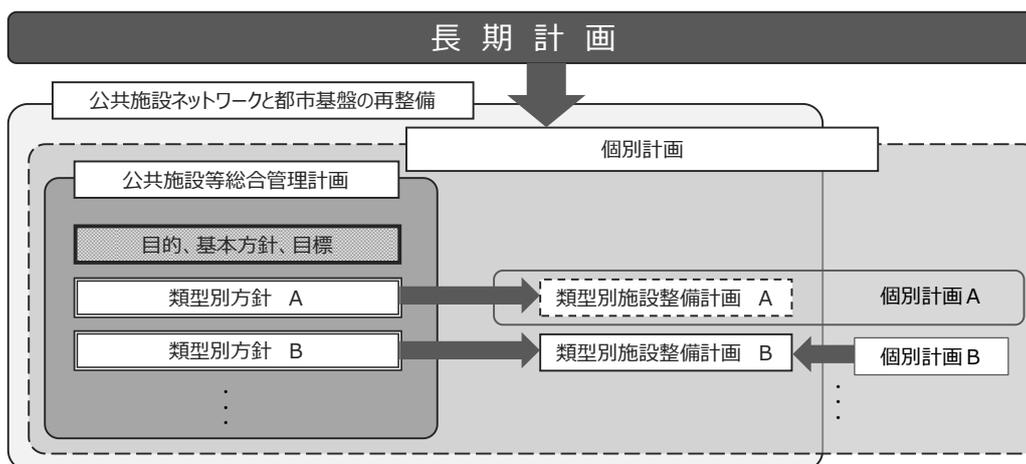
① 武蔵野市公共施設等総合管理計画について

武蔵野市では、将来にわたって健全な財政を維持しながら、公共施設を時代のニーズに合った施設に再整備し、魅力あるまちづくりを目指すために、平成 29（2017）年 2 月に「公共施設等総合管理計画」を策定した。

この計画は、今後これまでに整備してきた公共施設等が、令和 10（2028）年前後から大量に更新時期を迎え、多額の費用負担が集中することから、様々な工夫をこらしながら計画的な整備・更新を行う必要があり、すべての公共施設等を俯瞰する基本的な方針として取りまとめたものである。今後は、この計画に基づき、「（1）適切な公共サービスと長期的な健全財政に向けた公共施設等の維持・更新」「（2）安全性や利便性に優れた公共施設等の再整備」「（3）魅力あるまちづくりを目指した新たな価値の創造」を実現していくことが求められている。

この計画のなかでは、施設類型ごとに、施設整備に関して検討すべき内容や考え方について方針を取りまとめている（下記図「武蔵野市公共施設等総合管理計画」におけるコミュニティセンターの類型別方針」を参照）。今後は、この施設類型別の方針を踏まえつつ、類型別施設整備計画を策定し、コミュニティセンターの整備を行っていくことが求められている。

図表 20 「公共施設等総合管理計画」の位置づけ



* 類型別方針 A は、個別計画の中に施設整備計画を包含するもの。

* 類型別方針 B は、個別計画との整合を図りながら、類型別施設整備計画を別に策定するもの。

図表 21 「公共施設等総合管理計画」におけるコミュニティセンターの類型別方針

コミュニティセンターの類型別方針

- 中長期的にはコミセン、地域福祉、地域防災などの地域活動エリアのあり方について、学校区との関係も勘案しながら検討する。双方に利点があることを前提に、立地条件や歴史性、改築時期などに十分に留意し、施設の併設・複合化・多機能化等を検討する。
- コミセンによって施設内容や整備水準に差異がある。分館（元出張所）のあり方を検討するとともに、地域性などにも配慮しながら標準仕様を定めて整備していく。
- 改築時期等を見据え、エレベーターのない既存施設には積極的に設置を検討する。
- 災害時の地域支え合いステーションとしての機能が発現できるよう検討する。

② 各コミュニティセンターのこれまでの施設整備の実施状況と老朽化の現状について

コミュニティセンターの施設の老朽化に伴う改修やバリアフリー化等については、市での定期点検に基づき状況に応じて実施されている。具体的な改修・工事の経緯は次頁の表の通りである。

特に近年では、構造上設置が難しい一部のコミュニティセンターを除いて、バリアフリー化の取組みの一環としてエレベーターの設置工事が行われている。これによって、高齢の利用者や障害のある利用者であっても、誰もが利用しやすい施設環境の整備が進んでいる。

その他にも、空調設備や給排水管の改修工事など、施設・設備の老朽化の状況に応じて、誰もが気持ちよく安全に利用できるコミュニティセンターの実現に向けて改修・工事が進められてきている。

今後は、築後 60 年の時期を目途に迎える施設更新を見据え、計画的に施設整備のあり方を検討していくことが求められている。直近では、令和（2031）年の関前分館から、令和 16（2034）年の中央コミュニティセンター、令和 17（2035）年の境南コミュニティセンターと、順次各コミュニティセンターが更新の時期を迎える。

施設の更新にあたっては、上述の「武蔵野市公共施設等総合管理計画」の類型別方針と今後策定予定の個別の類型別施設整備計画を踏まえて、利用者及び地域住民等と広く対話を行い、施設整備のあり方について検討を重ねていくことが求められる。

図表 22 各コミュニティセンターの大規模改修の時期について

コミュニティ協議会	平成12(2000)以降の施設整備の状況(年度)	令和2(2020)年～	令和12(2030)年	令和13(2031)年	令和14(2032)年	令和15(2033)年	令和16(2034)年	令和17(2035)年	令和18(2036)年	令和19(2037)年	令和20(2038)年	令和21(2039)年	令和22(2040)年	令和23(2041)年	令和24(2042)年	令和25(2043)年	令和26(2044)年	令和27(2045)年	築後60年目改修年
吉祥寺東	・平成26(2014)、大広間空調設備更新工事									★									
本宿	・平成25(2013)、空調設備改修工事 ・平成27(2015)、外壁・屋上防水工事																		令和32(2050)年
吉祥寺南	・平成13(2001)、屋上防水・外壁等改修工事 ・平成23(2011)、太陽光発電設備設置工事 ・平成24(2012)、エレベーター改修工事 ・平成29(2017)、給排水管更新工事、空調設備、更新工事、電気設備工事														★				
御殿山	・平成13(2001)、空調設備改修工事 ・平成30(2018)、エレベーター設置・屋上防水等工事													★					
本町	・平成17(2005)、空調設備改修工事、屋上防水工事 ・令和元年(2019)、屋上防水工事												★						
吉祥寺西	・平成23(2011)、外壁改修工事 ・平成24(2012)、旧学童保育室改修工事 ・平成25(2013)、エレベーター改修工事 ・平成26(2014)、空調設備更新工事																		令和30(2048)年
吉祥寺西分館																			令和33(2051)年
吉祥寺北	・平成14(2002)、トイレ洋便器化工事 ・平成17(2005)、大雨被害復旧工事 <small>(地下内装改修、地下空調更新、エレベーター改修、電気設備更新など)</small> ・平成26(2014)、屋上キュービクル改修工事、屋上防水工事、トイレ改修工事 ・平成30(2018)、空調設備更新工事(1階・2階)										★								
けやき	・平成26(2014)、空調設備更新工事 ・令和元年(2019)、エレベーター設置工事																		令和31(2049)年
中央	・平成19(2007)、外壁改修工事 ・平成20(2008)、階段昇降機設置工事 ・平成30(2018)、給排水管更新工事、空調設備更新工事、内装改修工事						★												
中町集会所	・平成26(2014)、大広間空調設備更新工事									★									
西久保	・平成19(2007)、エレベーター改修工事 ・平成23(2011)、空調設備改修工事 ・平成25(2013)、アルミサッシ改修工事 ・平成27(2015)、給排水管・トイレ等改修工事									★									
緑町	・平成25(2013)、空調設備更新工事 ・平成27(2015)、外壁改修工事 ・平成28(2016)、エレベーター設置工事																		令和28(2046)年
八幡町	-																		令和54(2072)年
関前	・平成23(2011)、空調設備更新工事 ・平成27(2015)、給排水管・トイレ更新工事 ・平成28(2016)、エレベーター設置工事													★					
関前分館	・平成18(2006)、2階内装改修工事 ・平成29(2017)、空調機更新工事(1階・2階)			★															
西部	・平成14(2002)、トイレ洋便器化工事 ・平成15(2003)、空調設備更新工事 ・平成16(2004)、屋上防水工事 ・平成17(2005)、外壁改修工事 ・平成28(2016)、体育室特定天井改修工事 ・平成29(2017)、エレベーター更新工事																		令和28(2046)年
境南	・平成16(2004)、耐震補強改修工事 ・平成21(2009)、外壁・軒裏改修工事 ・平成24(2012)、エレベーター改修工事 ・平成28(2016)、空調設備更新工事 ・平成29(2017)、屋上防水工事								★										
桜堤	・平成19(2007)、1階・2階トイレ改修工事 ・平成28(2016)、空調設備更新工事 ・令和元年(2019)、エレベーター設置工事														★				

(2) 今後に向けて（総括）

今後の施設整備・維持管理に求められる考え方

① 施設の再配置等について

現在あるコミュニティセンター19館（分館含む）については、これまで個々の地域の特性を踏まえて建設され、市民自治の拠点として発展してきた歴史的な経緯がある。

各々のコミュニティ協議会は、コミセンの開設から数十年を経て、相当に施設運営に熟達してきている。主催事業の経験や利用者からの声を踏まえ、施設が有する部屋や設備、さらに庭や公園等の周辺環境も含め、その特長と制約を生かして施設を上手に有効活用する努力と工夫を続けており、コミセンでの様々な活動を促し、市民のコミセンへの愛着を高めている。

これらを踏まえると、他施設との統合（複合化）に特に積極的な意義が見いだせる場合でなければ、今後も適切に施設のメンテナンスを行いながら、16のコミュニティ協議会ごとに施設を維持していくことを施設配置の基本的な考え方としていくことが適当であろうと考える。

一方、コミュニティセンターは地域コミュニティの核となる機能を有しているため、福祉や防災、教育等との連携や、様々な団体の活動や学校区との関係などを踏まえて、施設に求められる機能・役割について柔軟に議論を進めることも重要である。

なお、分館については、歴史的な経緯や現状のメリット・デメリット、将来の利用状況の見込み、立地環境、周辺施設との関係などを十分に勘案し、必要性や機能のあり方を検討する必要がある。

② 施設の保全・改修について

1) 開かれたコミュニティセンターの実現

コミュニティセンターは、コミュニティとのつながりの中で上手に諸室の機能や利用方法等を工夫しながら発展してきたことから、施設としても地域に開かれた公共的な空間である必要がある。現在のコミュニティセンターの中にも、公園との一体的な活用を実現している施設や、エントランスやロビーが外側（地域）に開かれている施設などがあり、それぞれの特色が表れている。一方で、周辺環境の変化などから、閉じられた貸館と化していく傾向もある。地域に開かれた公共的な空間がコミュニティセンターの価値であることを改めて再認識し、様々な状況の変化を受けとめたうえで今後の改修を行っていく必要がある。

また、コミュニティセンターを誰もが使いやすい、コミュニティを醸成するための施設にしていくためにも、施設内部において、より開かれた諸室の関係や居心地の良い空間の実現が必要であり、利用者や運営委員・協力員などの声を聴きながら、内装改修や部屋の用途変更等を検討していくことが求められる。

これらの課題について、今後の大規模改修に際しては、コミュニティ協議会、地域住民、市、建築分野の専門家等が協議を重ねて、開かれた施設を実現していくことが期待される。その他、大規模改修を待たずとも、利用率の比較的低い和室等については、例えば机・椅子を配置することで別用途でも使用できるよう工夫するなど、既存の施設・設備を利用者・地

域住民のニーズを踏まえて上手く活用している事例もある。こうした施設の利用に関する創意・工夫をコミュニティ協議会の間で共有しながら、それぞれのコミュニティセンターの状況に応じた形で取組みを引き続き進めていくことが期待される。

2) 老朽化への対応

公共施設等総合管理計画では、コミセンをはじめとする公共施設は、定期的な点検と適切なメンテナンスを行うことによって、60年以上の使用が可能な長寿命化を図っていくことが基本とされている。

現状では、すべてのコミュニティセンターにおいて、法的な耐震性は満たしているが、将来にわたって施設の安全性を確保していくために、今後も施設の劣化状況を客観的に評価し、計画的に施設の改修を行っていく必要がある。空調設備改修工事や給排水管の改修工事など、老朽化の状況を適切に点検・把握しながら、運営側も利用者も誰もが安心して活用できるコミュニティセンターの整備を進めていくべきであろう。

3) バリアフリーの改善

コミュニティセンターはその立地条件や歴史性、改築時期等によって、施設内容や整備水準に差異がある。一方で、社会状況の変化を踏まえると、特にバリアフリー面の対応については、地域性に関わらず、標準的な仕様・水準を積極的に満たしていくことも必要であろう。中でもエレベーターについては、設置可能な施設についてはすでに設置工事が完了しており、残るエレベーター未設置の施設への可能な対応について検討を前進させていく必要がある。

また、廊下や階段の手すり、トイレの仕様、ユニバーサルな案内表示など、誰もが使いやすい施設にするため、適宜改修を行っていく必要があるだろう。

3. 地域フォーラム、コミュニティ未来塾むさしのについて

(1) これまでの経緯と現状について

① 「武蔵野市これからの地域コミュニティ検討委員会」の提言内容

平成 26 年に設置された「武蔵野市これからの地域コミュニティ検討委員会」では、今後のコミュニティ協議会のあり方や求められる機能等について検討が行われた。この検討委員会においては、当時のコミュニティには、大きく「①コミュニティづくりの認知と連携不足」「②コミュニティにおける複雑な区域設定」「③気軽に集いやすいコミュニティセンターづくり」「④地域活動の担い手の固定化や高齢化」の 4 つの課題があると示された。

これらの課題について、コミュニティ協議会や多様な活動団体、個人、行政等で共有しながら、今後の課題解決に向けて端緒を築いていく場として、「地域フォーラム (=協議の場)」の開催が提言された。

また、同提言においては、これからのコミュニティの実現のためには、市民自身が地域の課題を把握し、協議の場である地域フォーラムを運営する力を身につけることや、その「学び」の場を提供することも重要だとされている。そこで、平成 27 (2015) 年より開始されたのが、「コミュニティ未来塾むさしの」である。

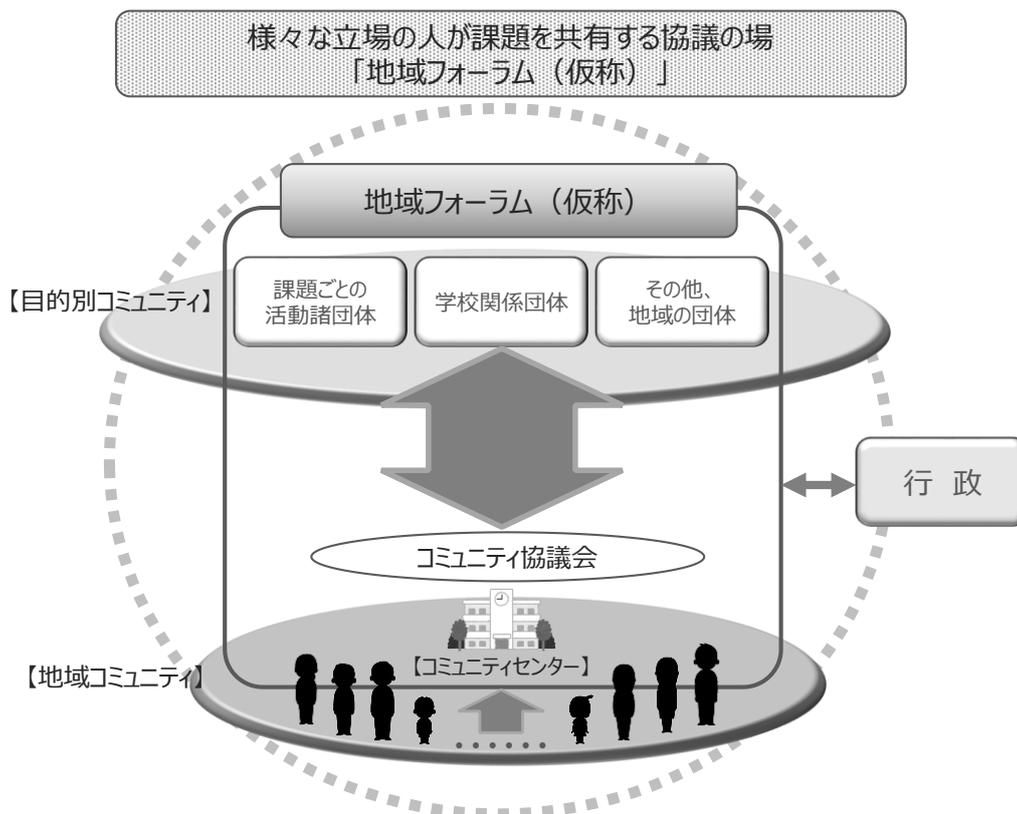
この 2 つの事業は、今後の各コミュニティ協議会の活動に与える影響が大きいと思われることから、本評価委員会において、これまでの取組み状況について整理するとともに、今後の事業のあり方について考察を行うこととしたい。

図表 23 コミュニティにおける課題（平成 25 (2013) 年当時）

①コミュニティづくりの認知と連携の不足	「コミュニティ構想」や「自主三原則」の考え方は、行政にも市民にも、十分にその意義や内容が共有されていないところがあります。また、子育て・防災・福祉等の分野ごとに、いくつかの活動団体が地域ごとに組織され、コミュニティ協議会との連携が不十分なままに活動を展開しています。
②コミュニティにおける複雑な区域設定	コミュニティ協議会の 16 区域も一部の地域で重複等が見られ、ある地域が複数のコミュニティ協議会の区域に含まれています。また、課題別の活動団体の活動区域や小学校区ともコミュニティ協議会の区域が同一ではないという現状もあり、活動を進めていく上での連携のしにくさなども発生しています。
③気軽に集いやすいコミュニティセンターづくり	「コミュニティ構想」では、コミュニティは閉鎖性を持たず、開かれたものであるべきとされてきましたが、活動の拠点となるコミュニティセンターの役割が広く認知されていないことや、気軽に立ち寄りやすい施設になっていないことなどから、その利用が特定の方となりやすい傾向があります。
④地域活動の担い手の固定化や高齢化	ほとんどの団体で担い手が不足し、1 人で複数の団体を掛け持ちして活動していることも少なくありません。また、活動の負担感や活動内容の周知不足からか、若い人の参加が少ないため、担い手の高齢化が進んでいます。

(出展) 武蔵野市「『武蔵野市これからの地域コミュニティ検討委員会』提言 概要版」(平成 26 年 11 月)

図表 24 「これからのコミュニティ」のイメージ



（出展）武蔵野市「『武蔵野市これからの地域コミュニティ検討委員会』提言 概要版」（平成 26 年 11 月）

② これまでの取組みの内容および評価

1) 地域フォーラム

「地域フォーラム」は、平成 26（2014）年以降、各コミュニティ協議会を中心に、様々な活動団体を巻き込んで、令和元（2019）年度末まで 45 回にわたって開催されている。「地域フォーラム」における開催テーマとしては、次のようなものが見られた。

図表 25 「地域フォーラム」開催テーマ（一部抜粋）

<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のごみ問題を考える（桜堤コミュニティ協議会） ・ 地域医療について（吉祥寺南町コミュニティ協議会） ・ 千川地域防災について（八幡町コミュニティ協議会） ・ 地域の人材をいかに発掘し育てるか／団体の枠を超えて協力できることは何か（けやきコミュニティ協議会） ・ 武蔵野の保育を考える（吉祥寺東コミュニティ協議会） ・ みんなで考えよう！認知症 地域で支え合うには？（本宿コミュニティ協議会） ・ 公共施設等総合管理計画に関する意見交換会（16コミュニティ協議会） ・ 自治基本条例について（吉祥寺北コミュニティ協議会）
--

図表 26 「地域フォーラム」に関する取組み例①

テーマ：「地域の人材をいかに発掘して育てるのか」「団体の枠を超えて協力できることは何か」（けやきコミュニティ協議会、平成 27(2015)年 11 月）

- ・ 「地域の人材をいかに発掘して育てるのか」「団体の枠を超えて協力できることは何か」をテーマに、地域の 25 団体 53 名を集めて地域フォーラムを開催した。具体的な参加者としては、PTA(四中、大野田小)、あそべえ、青少協、民生委員、地域防災会、福祉の会、(社福)武蔵野、(社福)社協、緑町コミセン、成蹊大、市高齢者支援課である。
- ・ このフォーラムを通して、「参加者から、話し合う機会をもっと作ってほしいとの要望があり、皆話し合う場を必要としているのだとわかった」「世代間での交流と情報交換ができたことにより、視野が広がり、思いがけないアイデアや意外な話が聞けて興味深い時間が共有できた」「人と人が繋がると信頼関係が構築され、助け合いの精神も生まれることを感じた」といった成果が挙げられた。



図表 27 「地域フォーラム」に関する取組み例②

テーマ：「防災地域フォーラム」（西部コミュニティ協議会、桜堤コミュニティ協議会、平成 28(2016)年 2 月）

- ・ 桜野地域防災懇談会準備会、西部コミュニティ協議会、桜堤コミュニティ協議会が共催して、桜野地域防災会の発足に向けて関係団体から 35 名を集めた地域フォーラムを開催した。具体的な参加者としては、青少協、ケアハウス、福祉の会、二中、桜野小、防災推進員、老人クラブ、町会、自主防災会、消防団、クリーンむさしの、民生委員、初動要員、日赤奉仕団、市防災課・市民活動推進課である。
- ・ 桜野地域防災会の発足に向けて、関係団体の連携を促進する機会になるとともに、地域の声を桜野地域防災懇談会準備会・小委員会に届ける機会となった。



図表 28 「地域フォーラム」に関する取組み例③

テーマ：「東部地域防災について」（本宿コミュニティ協議会、平成 28(2016)年 3 月）

- ・ 「来るべき首都直下型地震への準備」に向けて、東部防災会と共催で防災についてのフォーラムを開催した。地域の関係団体が一堂に集まり、問題点を掘り出し、認識の共有化を図ることを目的としている。
- ・ 具体的な参加者としては、消防団、本宿小学校、幼稚園、青少協、日赤奉仕団、福祉の会、民生委員、老人クラブ、防災推進員、町内会、吉祥寺東コミセン、市防災課・市民活動推進課であった。
- ・ 独居老人の安否確認・避難誘導、小学校生徒や幼稚園児の避難誘導、地域のハザードマップの作成、AEDの操作等について、地域の団体がどのように関わっていき、業務分擔するのかを検討する契機になった。また、防災だけでも様々な問題点があるという事を、団体間で互いに共有できたといった成果が挙げられている。



図表 296 「地域フォーラム」に関する取組み例④

テーマ：「安心・安全のまちづくりについて」（吉祥寺西コミュニティ協議会）

- ・ 地域の諸団体（吉西福祉の会、第一小学校PTA、井之頭小学校PTA、第一中学校PTA、青少協第一地区、青少協井之頭地区、クリーンむさしのを推進する会、吉祥寺本町シルバー会、吉祥寺本町在宅介護・地域包括支援センター、中道通り商店会、一小地域防災ネットワーク、井之頭小学校避難所運営協議会、防災推進員本町支部）の連携と地域の課題解決のために、年2回地域懇談会を継続的に開催している。
- ・ 初期の懇談会の内容は、諸団体の活動の紹介などであったが、現在は、本来の目的である地域の連携と地域の課題解決のために、**防災、防犯、井ノ頭通り美化活動などその時々**の課題をテーマに、懇談会を開催している。過去には、コミセンが実施していた街並みウォッチングで気付いた問題点などを取り上げ、安心・安全のまちづくりをテーマにまとめたものを市役所に要望書として提出したこともある。



図表 37 「地域フォーラム」に関する取組み例⑤

テーマ：「講演会」（吉祥寺北コミュニティ協議会）

- ・ 「地域住民・団体」とコミュニティを形成し、それを深めるための企画は何かよいか、との発想から地域の問題を題材とする講演会を開催している。
- ・ 地域住民・団体とのつながりを強化するという目的から、地域の中の主要な団体である福祉の会・北祥会（老人クラブ）とコミュニティ協議会の3者による共催で開催している。



なお、「地域フォーラム」という名称を用いていなくても、「ネットワーク事業」などの名称で実質的に同様の取組みも複数行われている（吉祥寺東コミュニティ協議会の「つどい」や吉祥寺東・本宿・吉祥寺南町コミュニティ協議会の「外環問題協議会」など）。

これらの実施状況を踏まえ、コミュニティ評価委員会において、「地域フォーラム」の成果と課題について次のとおり評価を行った。

図表 30 「地域フォーラム」に関する評価委員意見

項目	評価委員意見の概要
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研連でコミュニティ協議会から「地域フォーラム」の活動報告がされるようになった頃から、コミュニティ協議会と地域諸団体との協議の必要性が認識されるようになり、活動が活発化した。 ・ 従来、コミュニティセンターで行われていた「地域懇談会」等も「地域フォーラム」の一種だと認識され、年2回の開催が定着した例もある。同様に、「地域フォーラム」の名がつかなくても、以前より同様の活動をしていることが改めて確認できた。 ・ 既存事業（防災祭りなど）を、より地域の諸団体が関わり、地域全体でのイベントとなるように工夫する例もみられた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提言では行政の役割も重要だとあるが、現状ではリーダーシップを発揮することが少ない。ある程度行政が介入しなければ、他分野の団体を繋げにくい。「自主三原則」が壁になり、行政が関与をためらっているように感じるが、行政からも対等な立場で発言をしてほしい。改めて、行政と市民との役割分担を見直す必要がある。 ・ 「地域フォーラム」が、単発で開催されているように見受けられる。定期的で開催し、行政との情報交換もできていないと、提言で示された在り方（図表 24）の実現には至らないのではないか。 ・ 実態として、各コミュニティ協議会が主体として「地域フォーラム」を開催する例がほとんどであり、他団体にあまり浸透していない。 ・ 現状、コミュニティ協議会がコミュニティ構想の担い手として前面に出ており、負担が大きい。今後は、コミュニティ協議会の負担を分散し、地域で共有する方法を検討できるとよい。

2) コミュニティ未来塾むさしの

「コミュニティ未来塾むさしの」は、平成 27 (2015) 年以降、1 期ごとに 4～5 回の講座形式で行い、5 期にわたり開催をしている。関連する有識者やコミュニティづくりの実践者を講師に迎え、多様な講義を開催したほか、参加者によるグループワークや発表なども行っている。各期のテーマは次のとおりである。

図表 31 「地域をつなぐコーディネーター養成講座（コミュニティ未来塾むさしの）」講座テーマ

期	講座テーマ
第 1 期	<ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回：地域の姿を考える／参加者同士のつながりづくり ・第 2 回：コラボ・協働を生み出す対話術 ・第 3 回：地域を盛り上げるイベントの企画・集客・運営 ・第 4 回：多様なつながりのコーディネート／実践に向けてのキックオフ
第 2 期	<ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回：データが語る！地域コミュニティの大切さ／コーディネーターの活動事例紹介 ・第 2 回：人脈・コラボ・協働を生み出す対話術 ・第 3 回：活動の課題解決を一緒に考える実践ワークショップ ・第 4 回：WEB・SNS を活用した広報・情報発信 ・第 5 回：地域を盛り上げるイベントの企画・運営・集客
第 3 期	<ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回：データが語る！地域コミュニティの大切さ／コーディネーターの活動事例紹介 ・第 2 回：人脈・コラボ・協働を生み出す対話術 ・第 3 回：活動の課題解決を一緒に考えるワークショップ ・第 4 回：WEB・SNS を活用した広報・情報発信 ・第 5 回：地域を盛り上げるイベントの企画・運営・集客
第 4 期	<ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回：データが語る！地域コミュニティの大切さ／コーディネーターの活動事例紹介 ・第 2 回：みんなの対話を引き出す場づくり術 ・第 3 回：あたたかいコミュニティをつくるための人と組織のマネジメント基礎 ・第 4 回：一緒に課題解決を考える実践ワークショップ ・第 5 回：地域を盛り上げるイベントの企画・運営
第 5 期	<ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回：（講義）コミュニティ・マネジメント基礎－ゼミ生同士の関係性づくり ・第 2 回：（講義）強くあたたかい組織の作り方／ゼミ事前準備・オリエンテーション／プレゼンテーションを行うゼミ生の決定 ・第 3 回：ゼミ生によるプレゼンテーション&意見交換 ・第 4 回：ゼミ生によるプレゼンテーション&意見交換 ・第 5 回：ゼミ生によるプレゼンテーション&意見交換

これらの実施状況を踏まえ、コミュニティ評価委員会において、「コミュニティ未来塾むさしの」の成果と課題について次のとおり評価を行った。

図表 32 「コミュニティ未来塾むさしの」に関する評価委員意見

項目	評価委員意見の概要
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会運営委員に限らず、<u>コミュニティづくりに関わる、様々な属性の人が参加していた</u>点が良い。 ・修了生の中からは、地域で活動する団体やイベント情報を集約する Web メディアを立ち上げ、地域活動を行う人へのインタビュー記事等を掲載するといった<u>新しい活動が一部で生まれている</u>。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「コミュニティ未来塾むさしの」を、コミュニティ協議会運営員の研鑽の場として限定する必要はないが、<u>近年はテーマが発散している印象</u>を受ける。ある程度、コミュニティ活動に関連したものにした方が良い。 ・参加者の目的が多様であったがゆえに、内容がやや散漫になってしまった。初めてこのような活動に参加した人からは好意的な感想が上がっているが、その先の活動にまでつながらなかったという課題がある。 ・参加者の中から協議会運営委員となった人はほとんどいない。 ・「受けて終わり」ではなく、<u>次の一手につながるような在り方を検討したい</u>。

(2) 今後に向けて（総括）

① 「地域フォーラム」について

地域フォーラムに関しては、従来から行っていた事業を改めて「地域フォーラム」の視点から見直し、その価値の再発見をしたという成果や、一層地域の諸団体との連携を深めたという成果が挙げられた。

一方で、行政の関わり方の薄さや、コミュニティ協議会への負担の大きさといった点について課題が指摘され、またフォーラム開催後の展開の難しさもうかがえる。

こうした状況もありつつ、地域の諸団体とコミュニティ協議会、市が一堂に会して地域課題に関して対話を重ね、次のアクションにつなげる「地域フォーラム」の価値は、今後のコミュニティにおいても引き続き重要なものだといえる。そのため、この地域フォーラムを今後も引き続き必要なときに実施していくにあたって、地域フォーラムの意義や価値を広く共有するための好事例について、コミュニティ協議会間で共有していくことが求められる。

また、この「地域フォーラム」はコミュニティ協議会や地域の諸団体だけが活用するものではなく、行政が地域とつながって施策・事業の展開を行う上での貴重なコミュニケーションの場である。令和2（2020）年4月に施行された自治基本条例では、市民自治を推進する上で、市（行政と議会）と市民との「情報共有」、市政への「市民参加」の保障、「協働」して公共的課題の解決に取り組むことを基本原則として掲げている。こうしたことから、行政側の所管部署だけでは解決できない地域課題があり、地域コミュニティと連携しながら

ら進めていく必要が生じた際に、市の各部署がコミュニティとつながるために活用できる枠組みとして、地域フォーラムを位置付けていくことが重要である。

② 「コミュニティ未来塾むさしの」について

「コミュニティ未来塾むさしの」に関しては、コミュニティ協議会の委員に限らず、コミュニティづくりに関わる様々な属性の人が参加しているなど、より幅広い層をコミュニティ活動の担い手として巻き込んでいるという点で評価することができる。また、講座の修了生の中からは、地域の団体やイベント情報に関するウェブメディアを立ち上げるなどの新しい活動が一部で生まれている。また、長期計画のワークショップのファシリテーターを担ったり、修了生同士で地域フォーラムの企画や情報発信を行ったりするなどの成果も生まれている。

一方で、こうした講座修了生が、新たにコミュニティ協議会の運営委員になったり、地域フォーラム以外でコミュニティ協議会と協働したりするような、次の一手につながる例が少なかったことは課題だといえる。また、講座の内容としても、「これからの地域コミュニティ検討委員会」での提言を踏まえ、主にファシリテーションの重要さや技術などを学ぶ内容であったが、取り扱うテーマがやや総花的であったことは課題だといえる。

今後に向けては、事業の目的を改めて整理したうえで、「受けて終わり」の講座とならないよう、講座内容や対象となる参加者の想定を工夫する必要がある。具体的には、企画・検討にあたっては、講座形式にとらわれず、コミュニティ研究連絡会と丁寧話し合いながら、コミュニティ協議会の活動と連動したプログラムがあることが望ましい。また、これまでのコミュニティ研究連絡会の研修事業や、武蔵野プレイスなどで行われている市民活動支援事業、武蔵野市民社会福祉協議会の事業なども参考にしながら、内容を検討していくことが期待される。

さらに、対象者に関しても、運営委員・協力員をはじめコミュニティ協議会に携わろうとする人たちを念頭に置き、コミュニティ研究連絡会の研修事業と補完し合う形で実施していくことが求められる。「人材の確保・育成」にも記載した通り、運営委員・協力員の学びの機会の充実は大きな課題であり、今後のコミュニティ活動に求められるスキルや知識などを運営委員・協力員が学ぶことができるプログラムづくりと、記録やガイドブックの作成など学びを伝承できる工夫が期待される。

4. まとめ

本評価委員会は、第一期から数えて4期目のコミュニティ評価であった。これまで各コミュニティ協議会では、それぞれの地域特性や活動する運営委員・協力員の創意工夫によって、地域と共に活動を発展させてきた。本評価活動を通してそうした特徴あるコミュニティ協議会の運営の様子がうかがえた。

そうした中で、本評価委員会では、コミュニティ協議会の運営自体の評価はもちろんのこと、それだけに終始するのではなく、各コミュニティ協議会の特色ある取組みに注目し、それらに見える化することで、他のコミュニティ協議会にも広めていくことを目的に本評価報告書を取りまとめた。各コミュニティ協議会の方々には、他のコミュニティ協議会の取組みも参考にいただきながら、それぞれのコミュニティ協議会の状況に応じた形で、今後も引き続き活動を発展させていくことを期待したい。

そして、今後のコミュニティ協議会のあり方を検討する際の大きな論点として、新型コロナウイルス感染症の影響を挙げざるをえない。本評価委員会も新型コロナウイルス感染症の影響により、会議や視察が延期になるなど、大きな影響を受けた。また、他の公共施設と同様にコミセンも長期間にわたる休館を余儀なくされ、再開後も施設利用にさまざまな制限を設けざるを得ず、感染防止と両立した館運営と事業展開の模索が続いている。これまでコミセンを活動拠点としていた多くの市民が活動の場や居場所を失い、地域の日常から会話や笑顔が減っていくという辛い状況を目にしながら、館を運営するコミュニティ協議会は非常に難しい立場に置かれている。足元の感染症防止対策だけではなく、今後のコミュニティ活動のあり方自体を問い直すことが避けられなくなっている。

感染症と共存するコミュニティセンターのあり方としては、例えばウェブ会議システムの導入や予約の電子化の検討（予約状況のホームページでの公開など）、SNSの導入・活用による情報発信などが考えられるが、そうした技術的な議論だけではない検討も必要となってくる。つまり、これまではあくまで対面を前提としたコミュニティ活動が中心であったが、地域コミュニティにおいてもオンライン上のコミュニティ活動が増加するなか、改めて対面でのコミュニティ活動だからこそのできること・やるべきことは何か、また、どのような新しい価値を生み出していくのかを考えていくことが求められている。新型コロナウイルス感染症という未曾有の状況に直面するなかで、コミュニティ活動のあり方について再度問い直し、コミュニティ活動をさらに発展させていくことが期待される。

資料編

1. 各コミュニティ協議会の概況

- ・ コミュニティ協議会の概要について、①施設概要、②利用者数の推移、③主な事業（写真あり）、④平面図、⑤ハード面に関する情報（設置の経緯、工事経緯等）などを視察時の資料及び利用者アンケート調査等より作成予定

2. 各種調査結果

(1) 無作為抽出市民アンケート

- ・ 無作為抽出アンケートの調査結果の掲載を検討

(2) 利用者アンケート

- ・ 各コミュニティセンター別の利用者アンケート調査結果の掲載を検討

(3) 意見交換会結果

- ・ コミュニティセンター別の意見交換会における意見一覧の掲載を検討

(4) 視察

- ・ コミュニティセンター別の視察時の意見一覧の掲載を検討

第四期 武蔵野市コミュニティ評価委員会 報告書
(令和2年11月)

発行・編集

武蔵野市 市民部 市民活動推進課
〒180-8777 東京都武蔵野市緑町2-2-28
電話 0422-60-1830 (直通)